様式第２号の１－①【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

| | |
|---|---|
| 学校名 | 玉川大学 |
| 設置者名 | 学校法人 玉川学園 |

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

| 学部名 | 学科名 | 夜間・通信制の場合 | 実務経験のある教員等による授業科目の単位数 | | | | 省令で定める基準単位数 | 配置困難 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 全学共通科目 | 学部等共通科目 | 専門科目 | 合計 | | |
| 文学部 | 国語教育学科 | 夜・通信 | 26 | 0 | 4 | 30 | 13 | |
| | 英語教育学科 | 夜・通信 | | | 10 | 36 | 13 | |
| 農学部 | 生産農学科 | 夜・通信 | | 28 | 13 | 67 | 13 | |
| | 環境農学科 | 夜・通信 | | | 4 | 58 | 13 | |
| | 先端食農学科 | 夜・通信 | | | 7 | 61 | 13 | |
| 工学部 | 情報通信工学科 | 夜・通信 | | 22 | 6 | 54 | 13 | |
| | ソフトウェアサイエンス学科 | 夜・通信 | | | 0 | 48 | 13 | |
| | マネジメントサイエンス学科 | 夜・通信 | | | 10 | 58 | 13 | |
| | エンジニアリングデザイン学科 | 夜・通信 | | | 0 | 48 | 13 | |
| 経営学部 | 国際経営学科 | 夜・通信 | | 0 | 12 | 38 | 13 | |
| 教育学部 | 教育学科 | 夜・通信 | | 18 | 14 | 58 | 13 | |
| | 乳幼児発達学科 | 夜・通信 | | | 10 | 54 | 13 | |
| | 教育学科 | 夜・通信 | 0 | 0 | 13 | 13 | 13 | |
| 芸術学部 | パフォーミング・アーツ学科 | 夜・通信 | 26 | 8 | 4 | 38 | 13 | |
| | メディア・デザイン学科 | 夜・通信 | | | 0 | 34 | 13 | |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 芸術教育学科 | 夜・通信 | 26 | 8 | 10 | 44 | 13 | |
| リベラルアーツ学部 | リベラルアーツ学科 | 夜・通信 | | 14 | 16 | 56 | 13 | |
| 観光学部 | 観光学科 | 夜・通信 | | 10 | 0 | 36 | 13 | |
| （備考） | | | | | | | | |

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

（通学課程）
https://www.tamagawa.jp/university/intra/
授業関連　大学講義要覧・シラバス　を選択
UNITAMA　☞講義要覧・シラバス照会　を選択
シラバス照会　を選択
キーワード　担当者の実務経験　を入力
（通信教育課程）
https://www.tamagawa.jp/correspondence/about/advantage/classlist.html

３．要件を満たすことが困難である学部等

| 学部等名 |
|---|
| （困難である理由） |

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

| | |
|---|---|
| 学校名 | 玉川大学 |
| 設置者名 | 学校法人 玉川学園 |

１．理事（役員）名簿の公表方法

https://www.tamagawa.jp/introduction/outline/officer.html

２．学外者である理事の一覧表

| 常勤・非常勤の別 | 前職又は現職 | 任期 | 担当する職務内容や期待する役割 |
|---|---|---|---|
| 非常勤 | 会社役員<br>（神奈川県横浜市） | 平成 28 年 7 月 25 日<br>～<br>令和 3 年 7 月 24 日 | 学識経験者 |
| 非常勤 | 会社役員<br>（東京都千代田区） | 平成 28 年 7 月 25 日<br>～<br>令和 3 年 7 月 24 日 | 学識経験者 |
| 非常勤 | 会社役員<br>（東京都新宿区） | 平成 29 年 7 月 1 日<br>～<br>令和 3 年 7 月 24 日 | 学識経験者 |
| （備考） | | | |

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

| | |
|---|---|
| 学校名 | 玉川大学 |
| 設置者名 | 学校法人 玉川学園 |

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。

（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要）

シラバスの各項目の記載内容について「授業概要」は、当該授業の内容、学問領域の中の位置付け、学修することでわかる・できるようになること・期待する学修態度などを記載し、「授業を通して修得できる力」では、本学あるいは学部の DP・CP・人材養成等教育研究に関わる目的に基づいて科目の役割と位置づけを明確に記載している。「到達目標」では、授業期間内に到達可能な内容を記載し、「授業計画」では、各授業回で学ぶ主題・テーマを記載している。「成績評価方法」については、「授業を通して修得できる力」の到達度を含めて成績評価の透明性を確保できるように詳細な情報を記載し、「授業外指示（課題等)」については、授業を受けるために前もって終了しておく準備、授業終了後に望まれるさらなる学修などを関連付けして、予復習内容および課題（宿題）を記載している。3 月中旬から次年度の履修登録をおこなうため、3 月初旬に大学ホームページにてシラバスを公表する。そのため、前年度の 12 月末から 2 月上旬にかけてシラバスを作成している。

| | |
|---|---|
| 授業計画書の公表方法 | https://unitama.tamagawa.ac.jp/ |

２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）

履修登録をしている授業科目の成績は、定期試験および平素の成績をもって評価され、その結果合格と判定された者は、単位の認定を受ける。各授業科目の評価方法については、シラバスに掲載しており、成績評価の基準については、S（90～100：特に優秀であると評価する）・A（88～89：優秀であると評価する）・B（70～79：妥当であると評価する）・C（60～69：最低限度であると評価する）・F（59 以下：不合格）となる。また、成績評価保留制度を導入し、病気・怪我・就職試験・教職課程受講に関わる実習等考慮すべき事情により、その授業の単位修得条件を満たせない場合に、学生と科目担当者との間で協議して保留を申請することができる。申請が許可されたら、特別指導を経た後、単位認定試験を実施し、評価が確定する。

| ３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 | |
|---|---|
| （客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）<br><br>本学では、学生個々の学修達成度の評価法としてGPA（科目成績平均値）制度を導入している。科目履修にあたっては、単位の修得のみならず、優れた成績評価を得るよう努力させている。合格した科目の単位は各セメスター末に認定している。GPA評価は、S（4.00）・A（3.00）・B（2.00）・C（1.00）・F（0）を成績値として計算する。半期ごとに学修状況判定を設け、累積GPA2.00をクリアすることを求めている。卒業要件、警告制度、教職課程受講条件・海外留学・研修プログラム参加要件、奨学金の申請条件等にGPAを使用している。また、1～4年の学年区分に対応する修得単位数を定め、単位数を修得できない場合、4年間での卒業が延期となることがある。GPAの使用例、取得単位数から見た学年についての詳細は履修ガイドにて学生へ周知している。<br>GPAの算出方法<br>$$GPA=\frac{\text{（修得単位数×成績値）の合計}}{\text{履修登録科目の単位合計}}$$ | |
| 客観的な指標の算出方法の公表方法 | https://www.tamagawa.ac.jp/student_guidebook/2019/courses.html |
| ４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 | |
| （卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）<br><br>卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）においては、各学位プログラムの課程を修め、124単位以上を累積GPA2.00以上の成績で修得した者に卒業を認め、学士の学位を授与する。あわせて、以下の学士力を修得している人材を養成することを教育目標として掲げている。<br>(1) 知識・理解<br>（多文化・異文化に関する知識の理解、人類の文化・社会と自然に関する知識の理解）<br>(2) 汎用的技能<br>（コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力）<br>(3)態度・志向性<br>（自己管理力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力） | |
| 卒業の認定に関する方針の公表方法 | https://www.tamagawa.jp/university/introduction/outline/diplomacy/ |

様式第２号の４－①【⑷財務・経営情報の公表（大学・短期大学・高等専門学校）】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

| | |
|---|---|
| 学校名 | 玉川大学 |
| 設置者名 | 学校法人　玉川学園 |

１．財務諸表等

| 財務諸表等 | 公表方法 |
|---|---|
| 貸借対照表 | https://www.tamagawa.jp/introduction/financial.html |
| 収支計算書又は損益計算書 | https://www.tamagawa.jp/introduction/financial.html |
| 財産目録 | https://www.tamagawa.jp/introduction/financial.html |
| 事業報告書 | https://www.tamagawa.jp/introduction/financial.html |
| 監事による監査報告（書） | https://www.tamagawa.jp/introduction/financial.html |

２．事業計画（任意記載事項）

| |
|---|
| 単年度計画（名称：事業計画書　　対象年度：2019 年度　） |
| 公表方法：https://www.tamagawa.jp/introduction/financial.html |
| 中長期計画（名称：Tamagawa Vision 2020　　対象年度：2020 年度　） |
| 公表方法：https://www.tamagawa.jp/vision_2020/ |

３．教育活動に係る情報

（１）自己点検・評価の結果

| |
|---|
| 公表方法：https://www.tamagawa.jp/introduction/assessment/university.html |

（２）認証評価の結果（任意記載事項）

| |
|---|
| 公表方法：https://www.tamagawa.jp/introduction/accreditation.html |

（３）学校教育法施行規則第 172 条の２第１項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

| 学部等名　文学部 |
| --- |
| 教育研究上の目的<br>（公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_humanities/policy/） |
| （概要）<br>文学部は、全人教育の理念のもと、国際社会の一員として社会に貢献できる言語運用能力と言語技術、および論理的思考力と柔軟な対応力を備えた人材養成を目指している。そのため、言語・文化に関する専門的知識、言語運用能力（日本語・英語）、論理的思考力というグローバル社会が求める基礎力を育成するための学科構成およびカリキュラム編成を行っている。<br><br>国語教育学科は、国際社会の一員であるとの自覚をもち、母語としての日本語の特質について深い理解を有し、物事を論理的かつ批判的に思考する力を身につけ、的確な言語運用能力によってグローバル社会に貢献できる人材を養成することを目的として、「言語表現コース」と「国語教員養成コース」を置く。<br>「言語表現コース」では、豊かな言語観・文化観と確実な言語技術を有し、論理的・批判的思考を基盤にグローバルな社会に貢献することができる人材を、「国語教員養成コース」では、社会で必要とされる実践的な国語の能力と言語文化に関する専門的な知識を駆使して授業ができる能力を十分に有し、中学校・高等学校等の教育機関における国語教育に貢献することができる人材を養成する。<br><br>英語教育学科は、「英語教員養成コース」と「ELF コミュニケーションコース」の２領域で構成され、グローバル化に伴う言語や文化の多様化に対応できる資質・能力を育成することを目指し、国際コミュニケーションのための英語運用能力を身につけることを共通目標としている。<br>「英語教員養成コース」では、英語教員に求められる豊かな言語観・文化観と指導力を、「ELF コミュニケーションコース」では、国際共通語としての英語コミュニケーション能力を育成し、積極的に国際社会に貢献することのできる人材を養成する。 |
| 卒業の認定に関する方針<br>（公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_humanities/policy/） |
| （概要）<br>文学部は、全人教育の理念のもと、国際社会の一員として貢献できる水準の言語運用能力（日本語・英語）と論理的な思考力を身につけ、社会の多様な場面に的確に対応できる職業人あるいは高い指導力を備えた国語教育や英語教育の専門家を養成することを目指します。<br>文学部で学位を取得するためには、次の能力を示すことが求められます。<br>①言語や文化に関する専門的知識を修得し、適切に用いることができる。【知識・理解】<br>②修得した言語運用能力と言語技術を用いて自分自身の思考を論理的に表現するとともに、多角的な視野を持って主体的に問題を解決することができる。【汎用的技能】<br>③修得した言語運用能力と言語技術を用いて中学校・高等学校等で授業ができる能力を十分に有している。【汎用的技能】<br><br>［国語教育学科］<br>国語教育学科が重視する学士力は以下の項目であり、これらを身につけることが卒業時の到達目標である。<br>①社会で必要とされる言語技術を修得し、時宜に応じて適切に運用することができる。<br>②日本語の特質について深い理解を有し、物事を論理的かつ批判的に思考する力を身につ |

け、言語による的確なコミュニケーションをはかることができる。
③言語や文化の多様性を理解して尊重し、問題解決のために多角的な視野をもって主体的・積極的に行動することができる。
④「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」という日本語運用能力を実践的に発揮できる。
⑤豊かな言語観・文化観と確実な言語技術を有し、論理的・批判的思考を基盤にグローバル社会に貢献することができる。または、社会で必要とされる実践的な国語の能力と言語文化に関する専門的な知識を駆使して授業ができる能力を十分に有し、中学校・高等学校等の教育機関における国語教育に貢献することができる。

[英語教育学科]
英語教育学科が重視する学士力は以下の項目であり、これらを身につけることが卒業時の到達目標である。
①社会で通用する高度な英語運用能力を修得し、時宜に応じて適切に運用することができる。
②日英両語で運用される専門科目を学修し、その成果を卒業研究で示すことができる。
③自らの研究・考察の成果を口頭および文書で論理的に表現し、獲得した知識を実践に活かすことができる。
④言語と文化の多様性を理解して尊重し、問題解決のために国際的な視野をもって主体的・積極的に行動することができる。
⑤国際共通語としての英語の高度なスキルと、英語圏の言語や文化に関する専門的な知識を駆使して授業ができる能力を十分に有し、中学校・高等学校等の英語教育に貢献することができる。または、国際共通語としての英語の高度なスキルと、多言語・多文化に関する専門的な知識を駆使して円滑にコミュニケーションをとることができる能力を十分に有し、国際社会に貢献することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_humanities/policy/）

（概要）
文学部は、国語教育学科および英語教育学科の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、カリキュラム（教育課程）を編成しています。
①各学科の基礎教育科目では、言語運用能力(日本語・英語)の修得および各学科の専門教育の基礎となる教養の修得を図る。
②各学科の特質を活かした専門教育を重視し、主体的な学びを促し、それぞれの専門分野についての基本的知識・方法を身につけるために体系的な学科専門科目を編成する。
③教育現場での指導力育成のために理論と実践を組み合わせた学科専門科目や、論理的・批判的に思考し、それを表現する力を養うために、少人数グループの協働・参加型のより高度な学科専門科目を配置する。

[国語教育学科]
①グローバル化に伴う言語や文化の多様性に対応できる資質・能力を育成し、批判的読解力・論理的思考力・表現力といった言語技術を身につけ、さらにその上に立って、豊かな言語観・文化観を備えた人材を育成することを目標としている。
②社会に必要な言語技術と、論理的・批判的に思考する方法を修得するための科目群を用意する。また、それを基礎として、日本語・日本文学など言語観・文化観に関わる科目群、国語教育の指導法に関わる科目群、および、言語技術を高度化し、国際社会に貢献できる問題解決能力に資する科目群を設定する。
③各学年の学びの目標として「つかむ」・「つかう」・「のばす」・「たかめる」を設定し、さらに卒業後に自らの日本語能力を「きわめる」ことができる基礎をつくる。
④「国語教員養成コース」においては、中学校・高等学校の教育現場で指導ができるよう、言語技術の学習の基礎の上に、日本語や日本文学について専門的に学び、さらに国語科の指導法を修得できる効果的な国語教員養成プログラムを構築する。
⑤「言語表現コース」においては、現代のグローバル社会で活動できるよう、言語技術の

学習の基礎の上に、確実な言語表現技法、豊かな言語観・文化観を身につけ、論理的批判的思考と表現の方法を修得することで高い問題解決能力を備えることができる言語表現教育プログラムを構築する。

[英語教育学科]
①国際共通語としての英語の運用能力および国際的素養を高いレベルで修得できるようにするため、2 年次秋学期から 3 年次春学期に 2 セメスターの留学プログラムを配置し、その前後で留学での学びを最大限に活かせるように体系的に語学科目（ELF プログラムなど）および日英両語で運用される専門科目（バイリンガルプログラム）を提供する。
②「英語教員養成コース」においては、即戦力として英語教育の現場に立てるよう、理論と実践を組み合わせた英語教員養成プログラムを構築する。
③「英語教員養成コース」においては、学部と大学院の連携による発展的なカリキュラム編成を行う。
④「ELF コミュニケーションコース」においては、国際共通語としての英語を駆使して国際社会で活躍できるよう、必要とされる知識や技能を修得するための科目を配置する。
⑤ 自らの研究・考察の結果を口頭または文書で的確に論理的に表現できるようにするため、少人数グループの協働参加型学修を継続的に実践できるように科目を配置する。
⑥ 獲得した知識や考察の結果を活用し、実践や応用に結びつけることができるように、問題解決型・プロジェクト型の科目を適宜配置する。
⑦ 言語や文化の多様性を理解して尊重し、国際的な視野に立って行動できるよう、留学プログラムで実践的な経験を積む。また留学後も、海外経験が生きるように専門科目を体系的に配置する。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_humanities/policy/）

（概要）
文学部は、全人教育の理念のもと、国際社会の一員として貢献できる日本語および英語運用能力と論理的な思考力を身につけ、社会の多様な場面に的確に対応できる職業人や高い指導力を備えた日本語および英語教育の専門家を養成することを目指しています。そのために、文学部の入学者のアドミッション・ポリシーを以下のように設定します。
①高等学校で学習する教科内容について、高等学校卒業相当の知識を有していることを高等学校での成績および入学試験で示すことができる。
②他者の考えを理解し、自己の考えを表現するために必要な高等学校卒業相当の日本語および英語運用能力を身につけていることを成績、入学試験、あるいは外部検定試験で示すことができる。
③自分で情報を集め、整理し、その内容について聞き手を意識して話すことができる。
④本学部での学びを活かし、卒業後に社会の一員として貢献したいという意欲を、口頭および文章で表現することができる。

[国語教育学科]
国際社会の一員であるとの自覚をもち、国際的なコミュニケーションに対応する日本語運用能力を主体的に身につけ、社会の多様な場面に的確に対応しつつ国語教育を実践できる人材、積極的に社会に貢献できる人材を養成することを目指している。そのために、国語教育学科ではアドミッション・ポリシーを以下のように設定する。
①高等学校で学習する教科内容について（古文・漢文を含む）、高等学校卒業程度の学力を有していることを成績および入学試験で示すことができる。
②日本語の基礎的な運用能力を身につけていることを成績、入学試験、あるいは日本語運用能力に関する外部検定試験で示すことができる。
③自分で情報を集め、自分で考え、それを表現するという経験を有しているとともに、批判的読解力・論理的思考力・表現力への関心を持ち、それらを身につける意欲を有していることをプレゼンテーションなどによって示すことができる。
④本学科での学びを活かし、卒業後に国語教育や他の分野で貢献する意欲を表現すること

ができる。

[英語教育学科]
国際共通語としての英語運用能力を身に付け、積極的に国際社会に貢献できる人材、および社会の多様な場面で英語教育を実践できる人材を養成することを目指している。そのために、英語教育学科ではアドミッション・ポリシーを以下のように設定する。
①高等学校で学習する教科内容について、高等学校卒業相当の知識を有しており、特に英語の学修で成果を上げていることを高等学校での成績および入学試験で示すことができる。
②英語教育や異文化交流を、常に問題意識を持って考え、それを表現するために必要な英語の基礎的な運用能力を身につけていることを成績、入学試験、あるいは英語運用能力に関する外部検定試験で示すことができる（入学時に実用英語技能検定 2 級または TOEIC®L&R550 点程度）。
③本学科が定めた海外留学（2 年次秋学期～3 年次春学期）に参加することを承諾できる。
④本学科での学びを活かし、卒業後に英語教育や他の分野で貢献する意欲を表現することができる。

| 学部等名　農学部 |
| --- |
| 教育研究上の目的<br>（公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_agriculture/policy/） |
| （概要）<br>農学部は、これからの日本に求められる国際競争力の維持・向上、活力ある地域社会の構築という重要課題に「農学」という「食」、「環境」、「健康」に直結する学問領域を通じて、果敢に取り組み、問題を発見・解決する意欲と実行力のある人材の養成を目的とする。実物教育、総合的・学際的視点、国際性、倫理観の４つを重視する教育・研究を展開し、「生産農学」、「環境農学」、「先端食農」という広い視野で農学全般を捉えることを特色とする。これらを通じ、科学の基本である「なぜ？」という鋭い視点を持つ知的好奇心旺盛な人材育成を達成する。<br><br>生産農学科は、あらゆる生物を人間生活の貴重な「資源」としてとらえ、生物の持つ機能や特性を分子から個体の視点で追究できる人材の養成を行う。具体的には、有用微生物や有用天然物の探索、遺伝子組換え・昆虫の飼育・植物の栽培などの理論と技術を学修後、新機能の開発に結びつく研究を進める。これらの学修を通じて「生命の尊厳」・「他の生物との共存」などの倫理観を培い、食と農の安全安心に貢献できる人材育成を目指す。また、生産農学科は教員を養成するプログラムを設けており、中学・高等学校（理科）及び高等学校（農業）教員を育成する。<br><br>環境農学科は、自然環境や生産環境をよく理解し、地域性と国際的なセンスを兼ね備え、持続的循環型社会の構築に貢献できる人材の養成を行う。具体的には、農学に関する分野・諸問題に強い興味や取り組む意欲を持ち、生態系、農業生産、社会の３つの視点から「環境」を理論的・実践的に理解し、さまざまな問題解決に必要となる主体性と協調性を身につけた人材を育成する。<br><br>先端食農学科は、食料や食品の安全性や信頼性に関心が高まる中、既存の農業を越えた新たな食料生産のしくみや食品の機能性、食品製造にかかわる専門的な知識と実践的な能力を身に付けた人材を養成することを目的とする。植物工場や陸上養殖など最先端のシステム化された食料生産に関する知識や能力を修得し、また食品の機能性や安全性、食品の製造・加工に関する知識や能力を習熟できる学修環境の提供を通じて、食料生産、食品加工の現場で活躍できる人材を養成する。 |
| 卒業の認定に関する方針<br>（公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_agriculture/policy/） |
| （概要）<br>農学部は、人材養成等教育研究に係る目的に基づくカリキュラムを通して、以下の知識・技能・態度を学士力として修得・涵養し、卒業要件を充足した人に、学士（農学）の学位を授与します。<br>1.農学をはじめとし、様々な自然科学分野の情報を、収集・分析・理解・説明することができる。<br>2.生物学や化学を基盤とした農学に関連する科学的知識を、社会で必要とされる新たな知識･技術の発見や獲得、持続可能な発展、地域や地球規模での環境保全に応用できる。<br>3.社会の一員として、協調性や共同作業における役割分担の重要性を理解し、それらの態度・志向性をもち、生涯にわたって学ぶ姿勢を維持・向上することができる。<br>また、それらを通じて社会に貢献できる。学位授与に当たり、各学科が重視する学士力は次の通りである。<br><br>［生産農学科］<br>生産農学科が重視する学士力には以下の項目が挙げられ、これらの力を身につけることが卒業時における到達目標となる。<br>1.生物資源を有効利用するために必要な自然科学の情報を収集・分析・理解し、正しく活 |

用することができる。
2.農学に関連する専門的知識や理論を体系的に修得、理解し、関連産業の持続可能な発展や環境保全に応用できる。
3.実験・実習を通して技術と理論を修得することができる。
4.農学の学びに基づいて、協調性や倫理観を身につけ、社会に貢献できる。

理科教員養成プログラムに所属する学生ついては、以下の学士力を身につけることが到達目標となる。
1.自然科学の情報を、収集・分析・理解・説明することができる。
2.協調性や共同作業における役割分担の重要性を理解し、それらの態度・志向性をもち、生涯にわたって学ぶ姿勢を維持・向上することができる。また、それらを通じて社会に貢献できる。
3.理科や農業の面白さや大切さを理解し、理科教育または農業科教育に必要な情報を収集・分析・理解し、生徒等にわかりやすく説明できる。
4.理科教育や農業科教育に必要な実験や実習を、生徒等に正しく、安全に指導できる。
5.コミュニケーション力、語学力、文章作成力、計算力、協調性など、さまざまな問題に対する解決能力を修得し実践できる。

[環境農学科]
環境農学科が重視する学士力には以下の項目があげられ、これらの力を身につけることが卒業時における到達目標となる。
1.生態系を構成する生物・環境を理論的、実践的に学修し、これからの生物生産システム、環境社会学的な知識を通して、環境問題にさまざまなレベルで対応できる知識・技術を修得する。
2.海外留学（カナダ、オーストラリア）および国内（北海道、鹿児島、箱根町）にある本学の各施設を利用したカリキュラムにより、生物と地球のつながりを体系的に理解できる能力を修得する。
3.国際社会の一員として、協調性、寛容な態度や社会貢献の重要性を理解し、それらを生涯にわたり向上し続ける力と国際性を修得する。
4.言語や文化の多様性を理解、受容でき、問題解決のために国際的な視野を持って積極的に行動することができる。

[先端食農学科]
先端食農学科が重視する学士力には以下の項目が挙げられ、これらの力を身につけることが卒業時における到達目標となる。
1.世界の食料生産や食料需給、食品加工や食品製造に関わる状況を理解し、それらに関わる専門的な知識と実践的な能力を修得することにより、社会で必要とされる食料生産や食品加工の現場で貢献できる。
2.自然科学、特に化学と生物学を習熟した上で、食料生産や食品加工について修得した知識と実践的な能力を食料の生産、加工現場に適用して生かすことにより、安全で効率的な食料供給に貢献できる。
3.実験実習と講義を並行しながら理論とスキルを修得することができる。
4.情報を収集し、分析することで、自ら解決法を考え提示することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_agriculture/policy/）

（概要）
農学部の人材養成等教育研究に係る目的ならびに卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づいて、入学者（学習者）が主体的に学習に取組み、教職員による教育・支援および指導の下で自らの目標を達成できるよう体系的な教育課程を設けています。また、この教育課程の編成に当たっては、社会が要請する「学士力の養成」や「キャリア形成」、すなわち大学を卒業した人が備えているべき資質も重視しています。さらに、グロ

ーバル社会に対応するための英語力獲得を目指します。各学科の教育課程については、以下の方針に基づいて構築しています。

［生産農学科］
1.実験の基礎技術や応用技術を修得できるように実験科目を配置する。1年次、2年次には『基礎生物学実験』、『基礎化学実験』、『生物化学実験』を配置、3年次には『専門実験・実習Ⅰ・Ⅱ』を配置し、実験のスキルアップを図る。
2.実習の基礎知識や専門知識を修得させるために、1年次および2年次に『フィールド実習Ⅰ・Ⅱ』を配置する。また、3年次に配置する『フィールド実習Ⅲ』では、北海道、神奈川県（箱根町）、鹿児島県の学外農場を利用し、それぞれの地域の特徴ある実習を体験し、さらなる技術の修得を図る。
3.3年次には『生産農学演習Ⅰ』を配置し、4年次には『生産農学演習Ⅱ・Ⅲ』また4年間の集大成として、『卒業研究Ⅰ・Ⅱ』や『卒業研究論文』を配置し、それぞれの研究に携わる。

理科教員養成プログラムについては、以下の方針に基づいて教育課程を構成する。
1.専門科目の中核となる科目については、自然科学の幅広い知識を豊富な科目群の中から学生が選択して学べるようにする。
2.理科や農業に関する知識を深めることと並行して、1年次から「教職関連科目」を履修し、教職に就くために必要な知識と姿勢を確実に、早い段階から、身に付けることができるようにする。
3.自然科学の幅広い分野の知識と実践能力を獲得し、国民全体の科学技術リテラシーの向上と、児童・生徒の理科離れ等の諸問題に対応できるようにする。

［環境農学科］
1.国際共通語としての英語運用力を高めるとともに異文化を理解し、国際的なセンスを身につけるため、全員が2年次に4ヵ月間、海外留学を実施する。また、全員が北海道か鹿児島県にある本学施設で実習を行う。
2.専門科目の核となる科目、またプロジェクト型学修を行う科目については、3から4単位科目として学生が集中的に学べるようにする。
3.3年次からは生態系科学領域、持続的農学領域のいずれかに所属して学修を深める。
4.卒業研究で、4年間の学修の総まとめを行い、卒業時における到達目標を達成しているか、社会人として求められる能力が身についているかを確認させる。

［先端食農学科］
1年次には『生物学』『化学』『基礎生物学実験』『基礎化学実験』『有機化学Ⅰ』『農場実習』といった基礎的知識を修得するための科目を、2年次には『生物化学Ⅰ・Ⅱ』『微生物学』『園芸学』『海洋生態学』『植物栄養学』『食品機能化学』『先端食農実験Ⅰ』といった基本的な知識を修得し専門領域へと導入するための科目をそれぞれ必修で配置している。3年次では、4年次での専門的な教育研究に向けて、『食品衛生学』『栄養生理化学』『農薬化学』『植物生理学』『専門領域研究』などの科目を配置している。また、『食品加工実習Ⅰ』『植物工場実習』『陸上養殖実習』『フィールド実習』などの実習科目も設置され、個々の学生が自身の研究テーマを決定できるように工夫している。そして、4年次は集大成として各自の研究テーマに基づいて卒業研究を行い、論文を作成できるよう『先端食農演習ⅡA・ⅡB』『卒業研究Ⅰ・Ⅱ』『卒業研究論文』といった科目を必修で配置している。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_agriculture/policy/）

（概要）
農学部では、玉川大学の建学の精神・教育理念、農学部の教育方針を基盤とし、国際社会が必要とする能力と態度を備えた人材の養成を担う高等教育機関としての役割を果たすため、以下に示す各学科のアドミッション・ポリシーを設定します。

[生産農学科]
生産農学科ではあらゆる生物を人間生活の貴重な「資源」としてとらえ生物の持つ機能や特性を分子から個体の視点で追究できる人材の養成を目指している。そのためアドミッション・ポリシーを以下のように設定する。
1.高等学校の課程における理数系科目（生物、化学、数学）の教科書レベルの知識を持つ人。また、語学系科目に対する学力の指標の一つとして、関連する検定（実用英語技能検定準２級程度）、テスト（TOEIC®L&R400 点程度）などで相応のスコアを有していることが望ましい。
2.農学に対して関心を持ち、積極的に専門知識を学ぼうとする姿勢を持つ人。
3.実験や実習にも積極的に取り組む意欲を持つ人。
4.自分の考えをしっかり言葉で表現でき、かつ互いに議論でき、協調性のある人。

理科教員養成プログラムについては、上記に加え、以下も要項として求める。
1.自然科学全般に対して強い関心を持つ人。
2.理科教員や農業科教員、または教育関連の職業に就くことを第一目標としている人。
3.理科や農業の面白さや大切さを、自らの経験を通して生徒に伝えることのできる教員を目指す人。
4.教材研究などに積極的かつ安全に取り組める人。
5.コミュニケーション力、文章作成力、協調性を備え、さまざまな問題の解決に主体的に取り組める人。

[環境農学科]
環境農学科では、自然環境や生産環境をよく理解し、地域性と国際的なセンスを兼ね備え、持続的循環型社会の構築に貢献できる人材を養成することを目指す。そのために、アドミッション・ポリシーを以下のように設定する。
1. 高等学校の課程における理数系科目（生物、化学、数学）の教科書レベルの知識を持つ人。また、語学系科目に対する学力の指標の一つとして、関連する検定（実用英語技能検定準２級程度）、テスト（TOEIC®L&R400 点程度）などで相応のスコアを有していることが望ましい。
2.自然環境や農業における諸問題や異文化交流を踏まえた国際協力について、常に問題意識を持って考えられる人。
3.海外留学に４ヵ月間参加することを承諾できる人、在学期間を通して英語に関する授業に積極的に取り組むことができる人。
4.本学科で学んだことを生かし、卒業後に環境・農業分野を始めとし、さまざまな分野で貢献する意欲を有する人。

[先端食農学科]
先端食農学科では、世界の食料生産や食料需給、食品加工や食品製造にかかわる状況を理解し、それらに関わる専門的な知識と実践的な能力を修得することにより、社会で必要とされる食料生産や食品加工の現場で貢献できる人材の養成を目指す。そのためのアドミッション・ポリシーを以下のように設定する。
1.高等学校の課程における主要な科目（生物、化学、数学）の教科書レベルの知識を持つ人。また、語学系科目に対する学力の指標の一つとして、関連する検定（実用英語技能検定準２級程度）、テスト（TOEIC®L&R400 点程度）などで相応のスコアを有していることが望ましい。
2.食料生産、食料供給、食品製造、食品加工などについて問題意識を持ち、食料や食品に

関する新しい技術やその開発に関心をもって取り組むことができる人。
3. 本学科で学んだことを生かし、卒業後に食料生産や食品製造加工を始めとするさまざまな分野で貢献する意欲を有する人。

| 学部等名　工学部 |
| --- |
| 教育研究上の目的<br>（公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_engineering/policy/） |
| （概要）<br>工学部では全人教育の下、人間力を備えたモノつくりの実践的技術者を育成することをミッションとしている。教育研究に取り組む学部の基本的なスタンスとして、「技術者は、技術の進歩を追求する技術者である前に、人間であることを希求すること」「失敗を恐れず人生の開拓者として絶えず夢に挑戦する技術者であること」「現状の正しい認識の上に、常に将来を見据えた前向きな姿勢で迅速な改革に取り組むこと」を前提に実技教育、労作教育を展開する。また自然尊重、地球環境に留意し環境教育を実践する。その結果、社会人として十分な品格を持った人間性豊かで、コミュニケーション力、問題発見・解決能力を備え、環境にも配慮した新たな価値を創造できる技術者の育成に努める。<br><br>情報通信工学科では、人と人とをつなぐコミュニケーション能力と技術を身につけ、現代のグローバルな情報化社会で活躍できる正しい倫理観をもつ人材を育成する。特に社会におけるさまざまな物やシステムの情報制御技術、対人サービスのための知能ロボット、クラウドコンピューティングにおけるビッグデータ解析などのデータサイエンス、情報セキュリティーおよび高速通信技術といった、時代に即した技術イノベーションの基礎を学ぶ。<br><br>ソフトウェアサイエンス学科では、現代社会のインフラストラクチャーとして、生活に不可欠なコンピュータやネットワークを支えるソフトウェア技術を習得した高度情報社会を支える技術者を育成する。教育目標は、ソフトウェア技術およびこれによって実現している身近な携帯電話、ゲーム機、デジカメ、ビデオ、家電製品、自動車などのさまざまな技術を、総合的に修得し、健全な技術として発展させられる見識を持った全人的技術者を育成することにある。<br><br>マネジメントサイエンス学科では、教育目標として科学的なアプローチを中心に激変する企業経営に対応できる人材育成を目指している。さらに実践的な経営者・技術者として必要な倫理観を備えた人材の育成、問題発見能力、問題解決能力、評価能力を備える人材の育成を目指している。また社会が求める新たな価値創造のできる実践的な経営者・管理者・技術者の知識が獲得できるように教育プロセスの改善を教員が推進する。<br><br>エンジニアリングデザイン学科は、ものづくりに欠かせない従来技術分野の修得はもちろんのこと、グローバルに展開する産業界のニーズに適合しうる人材養成を目的とする学科で、「機械工学」分野を中心として図面の読める経営者や経営に参画できる技術者の養成を目的とする。具体的には、ものづくりに不可欠な設計・製図・実験などの修得だけではなく、デジタル生産技術・工業デザインなどを取り込むことにより、技術者、経営者として地球的にも活躍できる人材を輩出する<br><br>情報通信工学科、ソフトウェアサイエンス学科、マネジメントサイエンス学科は、数学教員養成プログラムを持つ。1 年次から数学を専門として学び、数学の深い知識と幅広い教授法を身につけた数学教員を養成する。 |
| 卒業の認定に関する方針<br>（公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_engineering/policy/） |
| （概要）<br>工学部では、人材養成等教育研究に係る目的を達成させるために、次のような能力を身に付けさせます。<br>（1）時代をリードする「自然と共生できる工学」「人を思いやる工学」の実践を通して、社会人として十分な品格を持った豊かな人間性<br>（2）工学に関する専門の知識や技術のほか、コミュニケーション力、問題発見・解決能力 |

各学科では、下記のような能力を身に着け、かつ所定の単位を修得した学生は卒業が認定されます。

[情報通信工学科]
1. 人と人のコミュニケーションを基盤としたより良い社会を築くため、情報・通信技術者としての幅広い素養と倫理を身につける。【態度・志向性】
2. グローバルな社会で活躍できる工学技術者として、技術的な議論ができる英語力と数理能力を身につける。【知識・理解】
3. 問題の発見能力、分析能力、解決能力、表現能力等を養い、深い洞察と考察ができる能力を身につける。【汎用的技能】
4. 結果を体系的にまとめあげ、発表することでプレゼンテーション能力を高め、かつ技術者として論理的に討議できるコミュニケーション能力を身につける。【統合的な学習経験と創造的思考力】

[ソフトウェアサイエンス学科]
1. 専門科目の履修を通して、コンピュータ・ソフトウェア技術、モバイルシステム・ネットワーク技術、ゲーム・コンテンツ関連技術、情報・数学教員のなかから 1 つ以上の専門分野に対する深い理解と高い技能を身につける。【知識・理解】
2. ユニバーシティ・スタンダード科目の履修を通して、学際的・国際的な幅広い社会的教養を修得し、更なる学問を追及する姿勢を身につける。【汎用的技能】
3. 自らの考えを正確かつ分かりやすく他者に伝えるとともに、他者の考えを正確に理解するように努め、技術者・教育者として論理的に討議や助言ができるコミュニケーション能力を身につける。【態度・志向性】
4. 卒業研究では、その結果を研究論文として体系的にまとめあげ、発表することでプレゼンテーション能力を高め、かつ技術者・教育者としての学修経験をし、専門分野における問題を発見し解決する力および新しい価値を創造する力を身につける。【統合的な学習経験と創造的思考力】

[マネジメントサイエンス学科]
1. 仕事に必要な学修を自主的に行い得る基礎的学習能力を身につける。 【知識・理解】
2. 世界の主な国々の文化の相違を理解することで多面的に物事を考える能力を持ち、わが国の社会人としての品格（知識・教養・感性・判断力など）を身につける。【態度・志向性】
3. 科学や技術が社会に及ぼす影響と、技術者・経営者・教員が社会に対して負っている責任と倫理を理解でき、科学や技術を的確に応用して問題解決に対処する能力を身につける。【統合的な学習経験と創造的思考力】
4. 計画的状況にも非予測的状況にもチームワークやリーダーシップをとることができ、論理性をもとにした双方向的コミュニケーション能力をもって対処する能力を身につける。【汎用的技能】

[エンジニアリングデザイン学科]
1. 自然科学や工学に関する基礎知識を持ち、将来技術者や経営者として他者と協創・協働できる力および企画力、マネジメント力を具備している。 【知識・汎用的技能】
2. エンジニアリングデザインに関する専門知識を修得し、これからのものづくりに精通した人材として新たな課題の解決に貢献することができる。【統合的な学習経験と創造的思考力】
3. エンジニアリングデザインに関する様々な情報を収集・分析・理解し、自らの考えを構築・発信することができる。【汎用的技能】
4. グローバルな視野に立って多面的に物事を考える能力を有し、我が国の社会人としての品格を身につけ、産業界でそれを実践することができる。【汎用的技能】
5. グローバル時代において、高い倫理観を持ち、日本国内ならびに海外において協業でき

る素地を会得している。【態度・志向性】
[数学教員養成プログラム]
1.教員に必要な能力開発を自主的に行い得る基礎的学習能力を身につける。【知識・理解】
2.世界の主な国々の文化の相違を理解することで多面的に物事を考える能力を持ち、教員としての品格（知識・教養・感性・判断力など）を身につける。【態度・志向性】
3.教員が社会に対して負っている責任と倫理を理解でき、教育現場での問題に対処する能力を身につける。【統合的な学習経験と創造的思考力】
4.慈愛と論理性をもとにした双方向的コミュニケーション能力をもって、生徒に対処する能力を身につける。【汎用的技能】
5.専門科目の学びを教育現場に応用する能力を身につける。【知識・理解】

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_engineering/policy/）

（概要）
工学部では、人材を養成するために、各学科で以下の方針に基づき学科カリキュラムを構成しています。

[情報通信工学科]
1.数学、物理、プログラミングにおいて徹底した基礎教育を行う。【知識・理解】
2.組み込み技術は、情報通信の基盤を支える必要不可欠な技術であるとの判断から、関連する『プログラミングⅠ』『電気回路入門』『センサ工学』『インテリジェントデバイス入門』の講義科目と『情報工学実験』『インテリジェントデバイス実験Ⅰ』の実験科目を必修とする。また、選択実験科目として『インテリジェントデバイス実験Ⅱ』『インテリジェントデバイス実験Ⅲ』を設置し、高度な組み込み技術の修得も可能にする。【知識・理解】
3.将来の就職先ならびに専門性を考慮し、専門領域は、「情報・通信」と「人工知能・ロボティクス」との2領域で構成する。【知識・理解】
4.大学院での研究に繋がる専門的な内容が修得できるように、発展的な専門科目として『人工知能』『光通信工学』という2つの4単位科目を4年次前期に設置する。【統合的な学習経験と創造的な思考力】

[ソフトウェアサイエンス学科]
1.コンピュータ・ソフトウェア技術、モバイルシステム・ネットワーク技術、ゲーム・コンテンツ関連技術、情報・数学教員の4分野の専門知識および技能を体系的に修得するために専門科目を設置する。そして自己研鑽を積み重ね、スキルアップを継続する力を修得することを目的として資格取得を支援する授業・補習を行う。
2.プログラミングは学科の根底をなす理論、概念、技術であるため少人数クラスによる徹底教育を行う。
3.企業理念、最先端技術、市場動向などを学ぶために企業講義(株式会社日立製作所)を開く。
4.ゲーム・コンテンツ分野をプログラミング技法などの技術的側面とともに、コンテンツ、企画開発の授業を行う。
5.3年生までに修得した専門知識および技能を活用することで専門分野における問題を発見・解決するとともに、得られた成果を論理的かつ簡潔に伝達する能力を養成するために卒業研究を必修科目として設置する。

[マネジメントサイエンス学科]
1.1年次において言語能力（日本語、英語）と論理的思考（数学）を徹底的に育成し、必要な学修や知識の習得を自主的に行う姿勢を身につける。
2.2年次では上記に加えて、専門科目のなかで分析能力とプロジェクト運営能力を育成することを通じて、最後までやり遂げる力とコミュニケーション能力の基礎を形成する。
3.3・4年次において専門科目をさらに発展させ、基礎力をどのように応用するかといった

真の実践能力を育成していく。
4.ビジネスパーソンとして必要とされる基礎力を高度に育成することができた人材を早期に発見し、特別に海外語学研修や企業への参画を経験させ、より成熟した形で世の中へ送り出すプログラムを用意する。

[エンジニアリングデザイン学科]
1.工学部における設計・デザインの専門教育に必要な数学・物理・化学・日英語の基礎を学び、十分な基礎学力を身に着ける。
2.デジタル／アナログならびに機械工学／経営工学のバランスを保った科目構成とし、柔軟な発想力と幅広い知識・スキル獲得が可能な体系を構成している。
3.デジタルなものづくりは21世紀社会における技術者に必要な知識であるとの判断から、『ファブラボ実験』、『CAD』を必修とする。
4.将来の就職先ならびに専門性を考慮し、専門領域は「ファブラボ」、「商品開発・デザイン」「バイオミメティクス・メカロボット」の3領域で構成する。
5.インターンシップを経験させ、国際的に通用するための、より実践的な科目も用意する。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_engineering/policy/）

（概要）
工学部では、玉川大学の教育信条に基づき、幅広い教養を持つ人間力を備えた実践的技術者を世に送り出すことを共通に目指しています。そのために、以下のような入学生を求めています。

[情報通信工学科]
1.高等学校の課程における主要な科目(数学、物理、化学、英語、国語、社会)の教科書レベルの基礎知識を有する人。数学は実用数学技能検定2級程度の学力を有する人。文章を正しく読解し、適切な表現を用いて論理的に記述する基礎的な能力を有する人。英語は実用英語技能検定準2級程度、またはTOEIC®L&R400点程度の学力を有する人。【知識・理解】
2.学内外の活動などにも積極的に関わり、人間力の向上を目指す人。【態度】
3.卒業までに外国人と意思疎通のできる英語力を修得するとともに、工学として必要な情報処理能力および数理的能力の取得を目標にできる人。【態度・志向性】
4.工学的成果を人類の社会福祉に役立てようとする倫理観を持つ人。【関心・意欲】
5.新しい技術を創造するための専門知識を身につけることを目標に、たえず努力することができる人。【態度・志向性】

[ソフトウェアサイエンス学科]
1.高等学校の課程における主要な科目（数学、物理、化学、英語、国語、社会）の教科書レベルの基礎知識を有する人。数学は実用数学技能検定2級程度の学力を有する人。文章を正しく読解し、適切な表現を用いて論理的に記述する基礎的な能力を有する人。英語は実用英語技能検定準2級程度、またはTOEIC®L&R400点程度の学力を有する人。【知識・理解】
2.教育課程以外の学内外の活動に積極的に関われる人。【態度】
3.卒業までに外国人と意思疎通のできる英語力を修得するとともに、工学として必要な情報処理能力および数理的能力の取得を目標にできる人。【態度・志向性】
4.社会が何を求めているか、常に問題意識を持って考えられる人。【思考・判断】
5.本学科で学んだことを生かし、ソフトウェア、ネットワーク、モバイルシステム、ゲーム・コンテンツ分野において社会に貢献する意欲を有する人。【関心・意欲】

[マネジメントサイエンス学科]
1.高等学校の課程における主要な科目（数学、物理、化学、英語、国語、社会）の教科書レベルの基礎知識を持つ人。数学は実用数学技能検定2級程度の学力を有する人。文章を

正しく読解し、適切な表現を用いて論理的に記述する基礎的な能力を有する人。英語は実用英語技能検定準 2 級程度、または TOEIC®L&R400 点程度の学力を有する人。【知識・理解】
2.教育課程以外の学内外の活動に積極的に関われる人。【態度】
3.卒業までに外国人と意思疎通のできる英語力を修得するとともに、工学として必要な数理的能力の取得を目標にできる人。【態度・志向性】
4.社会が何を求めているか、常に問題意識を持って考えられる人。【思考・判断】
5.本学科で学んだことを生かし、社会に貢献する意欲を有する人。【関心・意欲】

[エンジニアリングデザイン学科]
1.高等学校の課程における主要な科目（数学、物理、化学、英語、国語、社会）の教科書レベルの基礎知識を有する人。数学は実用数学技能検定 2 級程度の学力を有する人。文章を正しく読解し、適切な表現を用いて論理的に記述する基礎的な能力を有する人。英語は実用英語技能検定準 2 級程度、または TOEIC®L&R400 点程度の学力を有する人。【知識・理解】
2.教育課程以外の学内外の活動に積極的に関われる人。【態度】
3.卒業までに外国人と意思疎通のできる英語力の修得を目標にできる人。【態度・志向性】
4.ものづくりや異文化交流を、常に問題意識を持って考えられる人。【思考・判断】
5.本学科で学んだことを生かし、卒業後にエンジニアリングデザインや他の分野で貢献する意欲を有する人。【関心・意欲】

[数学教員養成プログラム]
1.高等学校の課程における主要な科目（数学、物理、化学、英語、国語、社会）の教科書レベルの基礎知識を持ち、他者にその内容を説明できる人。数学は実用数学技能検定準 1 級程度の学力を有する人。文章を正しく読解し、適切な表現を用いて論理的に記述する基礎的な能力を有する人。英語は実用英語技能検定準 2 級程度、または TOEIC®L&R400 点程度の学力を有する人。【知識・理解】
2.教育課程以外の学内外の活動に積極的に関われる人。【態度】
3.卒業までに外国人と意思疎通のできる英語力、数学教員としての数学力並びに指導力を身に付けることを目標にできる人。【態度・志向性】
4.社会が何を求めているか、常に問題意識を持って考えられる人。【思考・判断】
5.本プログラムで学んだことを生かし、教育の分野に貢献する意欲を有する人。【関心・意欲】

| 学部等名　経営学部 |
| --- |
| 教育研究上の目的<br>（公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/business_administration/policy/） |
| （概要）<br>経済・社会のグローバル化により、すでに海外進出をしている企業だけでなく国内市場を相手にしてきた企業も基本的な経営資源であるヒト・モノ・カネ・情報が国境を越えて移動することを前提にした経営を考える必要がある。世界の各地域には企業経営やビジネス慣行における独自性が残っているが、グローバル化の進展でそれらの標準化が急速に進んでおり、その動きを背景にして世界の経営学教育も日々進歩し標準化が進展している。またグローバル化の波はトランスナショナル企業を出現させ、国内においては生産の海外移転を加速させている。競争に耐えられない企業が整理される一方で、新たな成長の牽引役となる企業がイノベーションを生み出していくことが喫緊の課題となっている。<br><br>経営学部では国際経営学科に 3 つのコースを設けて専門性を高めると同時に世界標準で主要科目の学修を進めることで、グローバル化に主体的に取り組む実践力と情報発信できる英語コミュニケーション力を修得し、ビジネスを通して社会の要請に応え世界に貢献できる人材の養成を目指す。 |
| 卒業の認定に関する方針<br>（公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/business_administration/policy/） |
| （概要）<br>経営学部では、以下の能力を身につけている人に学位を授与します。<br>①世界標準で専門知識を身につけ、応用する。【知識・理解】<br>②多文化・異文化を有する国・地域との交流を通じて、個のアイデンティティを確立する。【知識・理解】<br>③グローバルなビジネスシーンで英語によりコミュニケーションを図る。【汎用的技能】<br>④さまざまな情報を論理的・数理的に分析し、ビジネスシーンの意思決定に役立てる。【汎用的技能】<br>⑤グローバル社会で主体的に取り組むための実践力・発信力を獲得する。【態度・志向性】<br>⑥起業家精神とイノベーションを生み出す力を体験的に身につける。【態度・志向性】 |
| 教育課程の編成及び実施に関する方針<br>（公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/business_administration/policy/） |
| （概要）<br>経営学部では、以下の方針に基づいて卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と各授業科目の到達目標の関連を明確にしてカリキュラムを設計しています。<br>①経営分野で世界標準になっている科目を必修科目とし、コース別科目でさらに専門性を高める。【知識・理解】<br>②ビジネスで活用できる英語力を獲得するために、4 技能を高める ELF（English as a Lingua Franca）科目と英語で経営学を学修する科目を配置して相互に連携を図る。【汎用的技能】<br>③世界の文化・社会に関心をもち、グローバル社会において自らの意見・考えを発信できる科目を設置する。【態度・志向性】 |
| 入学者の受入れに関する方針<br>（公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/business_administration/policy/） |
| （概要）<br>経営学部では、以下の方針に基づいて学生を受け入れます。<br>①実用英語技能検定準 2 級以上、または TOEIC®L&R400 点以上を取得していることが望ましい。【知識・理解】<br>②高等学校における「数学Ⅰ・A」の知識があり、実用数学技能検定準 2 級以上を取得していることが望ましい。【知識・理解】<br>③経済・社会における事象について、自らの考えを筋道立てて説明でき、語彙・読解力検 |

定準2級以上を取得していることが望ましい。【汎用的技能】
④英語力を強みとしてビジネスに携わり、世界を舞台に活躍する意欲がある。【態度・志向性】

| 学部等名　教育学部 |
| --- |
| 教育研究上の目的<br>（公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/education/policy/） |
| （概要）<br>教育学部は、全人教育の理念に基づき、幅広い知識と理解の深化、社会の変化やニーズに対応できる総合的かつ汎用的な技能や諸能力の体得、平和で豊かな社会の実現に積極的に寄与できる態度・志向性の涵養、そして専攻する分野における幅広く深い専門力、創造的思考力、実践的指導力の醸成を目指す人材養成等の教育研究を行うことで、人間や社会への理解や敬愛、規範意識・倫理観、教育や職務への使命感・責任感、自ら研鑽に努める意欲、実社会におけるリーダーシップ、それらを総合的に活用し自ら課題を解決する能力等を有する教員・保育士ならびに社会人を世に輩出する。<br><br>教育学科は、玉川教師訓を踏まえ、主として幼稚園、小・中・高等学校教育に関する専門的知識・技能、実践的な指導力を併せ持つ教員の養成とともに、教育関連分野をはじめとする幅広い分野に貢献できる人材の養成を目指す。<br><br>乳幼児発達学科は、玉川教師訓を踏まえ、教育・保育に関する専門的知識・技能、実践的な指導力を併せ持つ教員・保育士の養成とともに、社会のニーズに応えられる子育て支援に関わる人材の養成を目指す。 |
| 卒業の認定に関する方針<br>（公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/education/policy/） |
| （概要）<br>教育学部は、「人材養成等教育研究に係る目的」に向けて、次の学修成果を果たした者に学位を授与する。<br><br>〔知識・理解〕<br>・教育学・保育学における基本的な知識を体系的に理解した上で、教育・保育に関する確かな専門的知識を修得し、さらにそれらの知識を歴史・文化・社会・自然と関連付けることができる。<br>〔汎用的技能〕<br>・基礎的な言語操作力、数理分析力を確実に身につけ、確固たる情報リテラシーによる ICT を効果的に活用できる。<br>・自ら課題を設定し、研究を重ねることにより、教育・保育における諸課題について考察し、解決のための方法を論理的に思考し、実践に向けて主体的、創造的、協働的に取り組むことができる。<br>〔態度・志向性〕<br>・教育学・保育学の視点から様々な社会の諸問題に主体的に関心を持ち、多様な人や文化を理解し、共生できる力を身に付けることで社会的責任を持って社会発展に積極的に関与できる。<br>・教育・保育およびその関連分野におけるヒューマン・サービスの社会的意義と特性を理解し、豊かな人間性と使命感、および倫理観を持って人の成育や福祉に関する分野において協調・協働力、そしてリーダーシップを発揮できる。<br>・自らを律して行動し、教育学・保育学を基盤として、大学院への進学や生涯学修・研究し続けることで、変化の激しい社会に適応できる。<br><br>［教育学科（初等教育専攻）］<br>初等教育専攻が重視する学士力には以下の項目があげられ、これらを身に付けることが卒業時における到達目標となる。<br>〔知識・理解〕<br>・初等教育に関する確かな専門的知識を修得し、初等教育の諸問題について学術的に研究し、さらに修得した専門的知識や研究の成果を初等教育の内容となる歴史・文化・社会・ |

自然の各分野と関連づけて活用できる。
〔汎用的技能〕
・主に幼稚園または小学校の教員として、あるいは初等教育の専門家に求められるコミュニケーションスキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、そして問題解決力を発揮できる。
〔態度・志向性〕
・初等教育に関する理論と実践に基づいた専門的な知識と技能を総合的に活用して、教育界や広く社会の発展のために貢献することができる。

［教育学科（社会科教育専攻）］
社会科教育専攻が重視する学士力には以下の項目があげられ、これらのいずれかを身に付けることが卒業時における到達目標となる。
〔知識・理解〕
・社会との関わりにおいて必要とされる知識を広く体系的に理解した上で、社会科教育に関する確かな専門的知識を修得し、さらにそれらの知識を現実社会の諸課題と関連付けることができる。
〔汎用的技能〕
・当該専攻における学修の成果を踏まえた確かな言語能力を基盤とするコミュニケーションスキルを確実に身に付けるとともに、ICT を適切かつ効果的に活用できる。
〔態度・志向性〕
・我が国ならびに他国における多様な文化を尊重し、グローバル社会において、中心的な役割を果たすことのできる主体性と協調性、チャレンジ精神を持つことができる。
・自己の個性と強みを生かした主体的な生き方を志向し、他者と調和しながら、より良い社会の発展に寄与する態度・姿勢を持つことができる。

［教育学科（保健体育専攻）］
保健体育専攻が重視する学士力には以下の項目があげられ、これらを身に付けることが卒業時における到達目標となる。
〔知識・理解〕
・保健体育や健康教育に関する基本的な知識を体系的に理解した上で、教育現場において指導ができる中学校、高等学校の教員としての確かな専門的知識を修得し、さらにそれらの知識を健康やスポーツに関する分野の諸課題と関連付けることができる。
〔汎用的技能〕
・保健体育の教科教育の指導力とともに、教科外活動の指導・支援能力を備え、学校全体の健康・体力づくり等の実践において主体的・創造的・協働的に取り組むことができる。
〔態度・志向性〕
・国際的な視点で健康とスポーツに関する様々な問題に関心を持ち、産業保健分野や地域社会などにおいてリーダーシップを発揮しながら貢献できる。

［教育学科 通信教育課程］
通信教育課程が重視する学士力には以下の項目があげられ、これらを身に付けることが卒業時における到達目標となる。
〔知識・理解〕
・学校教育・社会教育に関する確かな専門的知識を修得し、教育の諸問題について学術的に研究し、さらに修得した専門的知識や研究の成果を社会との関わりにおいて活用することができる。
〔汎用的技能〕
・幅広い視野と国際感覚、主体的・対話的で深い学びを推進する上で必要とされるコミュニケーションスキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、そして問題解決力を身に付け、学校教育・社会教育関連分野で地域社会に貢献できる。
〔態度・志向性〕

・学校教育・社会教育に関する理論と実践に基づいた専門的な知識と技能を総合的に活用することによって、教育の専門家として、より良い社会の発展に寄与する態度・姿勢を持つことができる。

［乳幼児発達学科］
乳幼児発達学科が重視する学士力には以下の項目があげられ、これらを身に付けることが卒業時における到達目標となる。
〔知識・理解〕
・乳幼児から成人に至るまでの人としての育ちについての深い見識を備えた上に、教育・保育に関する専門的知識や技能を修得し、それらの知見を広く生活（歴史・文化・社会・自然など）と関連付けることができる。
〔汎用的技能〕
・幼稚園の教員や保育士の役割や教育・保育の社会的意義と特性を理解し、実践に向けて主体的、創造的、協働的に取り組むことができる。
〔態度・志向性〕
・教育・保育に関する理論と実践に基づいた専門的な知識と技能を総合的に活用することによって、協調・協働力、そしてリーダーシップを発揮し、教育・保育の発展に貢献するとともに、現代社会の問題解決に積極的に寄与する態度・姿勢を持つことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/education/policy/）

（概要）
教育学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、教育課程の編成・実施方針を以下に明示する。

全人教育および12の教育信条を教育課程の編成の根本に据えつつ、教育職員免許法施行規則第六条の区分、児童福祉法施行規則および指定保育士養成施設指定基準を踏まえて科目を開設し、基礎的・概論的な科目から各論的・実践的な科目、さらにより発展的な内容の科目へと履修を進めていくことができるように科目を配列している。
教育学部が課程認定を受けている教育職員免許状、保育士資格、あるいはその他の資格のうち、原則として1つまたは2つの免許・資格取得が可能である。そのために、2年次より学科別、あるいは専攻別に、学生各自の進路・志望に従って教育職員免許状、保育士資格、あるいはその他の資格取得に必要な科目を履修し、所定の単位認定を受けることで免許状・資格を取得する。
同時に、多様なキャリアを模索することのできる社会人としての資質・能力を高める機会、社会の急激な変化に対応することのできる人間として普遍的に求められる知識・技能、そして教養を偏ることなく学ぶ機会、そして、既存の知識体系に固執せず、常に新しい知識を対話的な深い学びを通して獲得し、知的探究心を高める機会となる科目構成を提供する。また、卒業後に専門性のさらなる深化の一助となる大学院進学を念頭に置いた科目も併せて提供する。
〔1年次〕
・全学共通の初年次教育であるユニバーシティ・スタンダード科目、玉川教育・FYE科目、情報リテラシー科目に加えて、基礎的な言語操作力（特に外国語の知識・学力）を育成するためのELF科目を修得する。
・教育・保育の基礎段階となる「教育学概論」および「教職概論」を必修科目として修得する。
〔1年次後半から2年次〕
・教育・保育の理論的基礎となる科目群から、必修選択科目として3科目以上を修得する。
・教育学部が定める階級の英語・国語・数学各分野の検定・資格を2年次末までに取得していることを3年次以降の科目履修の基本とする。
・教育インターンシップや学校・福祉ボランティアの機会を重視し、現場での子どもとの関わりや活動から自身の進路・志望を明確化する。

〔3 年次、4 年次〕
・各自の興味・関心の高い分野に関して専門的・学術的に学修・研究を行う「現代教育研究Ⅰ」および「現代教育研究Ⅱ」、「卒業課題研究Ⅰ」および「卒業課題研究 II」を必修科目として修得する。
・教育インターンシップや学校・福祉ボランティアに加えて、教育実習や保育実習では、現場に行く機会を重視し、子どもとの関わりや活動から、教員・保育士としての専門性を深める。
・教育実習では、現場で子どもと関わる機会を重視し、学級活動や課外活動を観察し、課題解決的な授業を実践することを通して教員としての専門性を深める。
〔学修成果の評価〕
・各科目の評価基準はルーブリックとしてシラバスに示す。卒業研究の評価は学部で定めた共通の評価基準によって行う。

［教育学科（初等教育専攻）］
初等教育専攻の教育課程は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、次のように編成・実施する。
・初等教育を学修する上で基盤となる教育学並びに教職に関する基礎科目群から修得する。
・現代社会で必要とされる、幅広い教養、コミュニケーション能力、論理的思考力を培うユニバーシティ・スタンダード科目群から修得する。
・幼稚園および小学校教諭一種免許状のいずれか、または幼小連携を視野に入れた両方を取得するため、実習を含む関連科目を選択履修し、所定の単位を効率的かつ効果的に修得することができるように、1 年次から 4 年次にかけて教職関連科目を修得する。
・小中一貫教育など学校種を超えた指導ができる能力を身に付けるために、本専攻において取得可能な中学校教諭二種免許状に関する教職関連科目を修得する。
・教職界に限らず、初等教育の学修成果を活かして広く現代社会に貢献できる能力を身に付けるために、キャリア教育に関する科目を修得する。

［教育学科（社会科教育専攻）］
社会科教育専攻の教育課程は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、次のように編成・実施する。
・社会科系領域に関する確かな専門的知識を習得するとともに、多面的・多角的な学びから教養を広げ、現実社会の諸課題を理解する。
・社会科系領域に関する知識および技能の学び方を理解し、教科としての見方・考え方や、確かな言語能力を基盤とする汎用的技能を獲得する。
・中学校教諭一種免許状（社会）、高等学校教諭一種免許状（地理歴史、公民）の取得を目指し、社会科系領域について免許法施行規則に定める教科及び教科の指導法に関する所定の科目を効率的かつ効果的に修得する。
・小中・中高一貫教育などに対応できるよう、学校種を超えて指導できる能力を備えるために小学校教諭二種免許関連科目の履修を可能とし、免許法施行規則に定める教科及び教科の指導法に関する所定の科目を効率的かつ効果的に修得する。
・学校や地域での諸活動の機会を重視し、他分野の教員や専門家等と連携・協働する力を培うとともに、現場での子どもとの関わりや活動から自身の進路・志望を明確化する。

［教育学科（保健体育専攻）］
保健体育専攻の教育課程は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、次のように編成・実施する。
・中学校および高等学校教諭一種免許状（保健体育）の取得を目指し、保健体育科教員としての知識・技能、指導技術を育成するため、実習を含む関連科目を選択履修し、所定の単位を効率的かつ効果的に修得することができるよう、1 年次から 4 年次にかけて科目を修得する。

・小中・中高一貫教育などに対応できるよう、学校種を超えて指導できる能力を備えるために、小学校教諭二種免許関連科目の履修を可能にする。
・保健体育領域について各学校段階に即した内容の科目を修得する。
・1 年次には本学の伝統であるスキー教育に関して、「体育実技（スキー）」を配列し、その他の体育実技科目を 3 年次までに修得する。
・本学の伝統である体育祭に 1 年次に参加し、2・3 年次には運営、4 年次には体操指導を行うことで、教育現場における体育祭等の行事教育を中心的に管理運営できる能力を身に付ける。

［教育学科 通信教育課程］
通信教育課程は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、次のように編成・実施する。なお、既に教育職員免許状あるいはその他の資格を取得するための基礎資格（学歴）を充足している人に対しては、免許状・資格を取得するための科目を主に修得させる教育課程を編成・実施する。
・初等教育を学修する上で基盤となる教育学並びに教職に関する基礎科目群を修得する。
・現代社会で必要とされる、幅広い教養、コミュニケーション能力、論理的思考力を培うユニバーシティ・スタンダード科目群を修得する。
・通信教育課程として課程認定を受けている複数の教育職員免許状あるいはその他の資格を取得するため、学生各自の進路・志望に従って所定の単位を修得するが、いずれも基礎的・概論的な科目から各論的・実践的な科目、さらにより発展的な内容の科目へと履修を進める。
・教育職員免許状取得希望者には、教員としての知識・技能、指導技術を育成するため、実習を含む関連科目を選択履修し、所定の単位を効率的かつ効果的に修得することができるよう、1 年次から 4 年次にかけて科目を修得する。

［乳幼児発達学科］
乳幼児発達学科の教育課程は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、次のように編成・実施する。
・教育・保育を学修する上で基盤となる科目並びに教職に関する基礎科目を修得する。
・現代社会で必要とされる、幅広い教養、コミュニケーション能力、論理的思考力を培うユニバーシティ・スタンダード科目を修得する。
・幼稚園の教員、保育士の養成を目指し、1 年次から 4 年次にかけて段階的に教育インターンシップや教育・保育実習に取り組み、実践的な学びと理論的な学びを交差させて履修することで、学修内容の相乗効果が促されるよう配列された科目を修得する。
・教育・保育の歴史や、制度、方法など新たな国の動向や課題を理解し、幼稚園の教員や保育士に必要な教育・保育全般の知識・技能が習得されるように科目を配列し、免許状および資格の取得を目指す。
・教育・保育に対する全般的な知識・技能の修得を基盤とし、さらに、幼稚園の教員や保育士の専門性となる、人の育ちに関わる職種、子育て支援、特別な支援を必要とする子どもの教育・保育などの分野での社会貢献を促す援助・支援のあり方に関する科目を修得する。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/education/policy/）

（概要）
教育学部のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに基づき、入学者受け入れ方針を以下に明示する。
1.望む学生像について
・本学創立の理念である全人教育の理念について興味・関心を持つ人
・人間としての基本的な規範意識（モラル）を有する人
・人間の尊厳を大切にし、教育・保育について関心を持ち、それらの職への強い使命感や志のある人

・子どもとの積極的なかかわりから、教育・保育への理解を深めることができる人
・専門的知識や教育的技術を獲得するために主体的、自発的に学ぶことができる人
・芸術活動などを通して育まれる創造性や環境に対する感性を磨くことができる人
・豊かな教養と国際感覚を身に付け、社会の発展に積極的に貢献することができる人
2.高等学校における学習について
・基礎的学力として、高等学校卒業相当の英語・国語・数学の能力を身につけていることを、成績、入学試験、あるいは外部検定試験（詳細は以下参照）を取得していることで示すことができる人
［外部検定で取得が望ましい等級］
英語関連検定:実用英語技能検定準2級、TOEIC®L&R もしくは TOEIC®L&RIP400 点以上、GTEC（4 技能版）690 点以上、GTEC（3 技能版）410 点以上（オフィシャルスコアに限る）、GTEC for STUDENTS（L&R&W）410 点以上（オフィシャルスコアに限る）、GTEC CBT 692 点以上
国語関連検定：日本語検定 3 級、日本漢字能力検定準 2 級、語彙・読解力検定 2 級、日本語運用能力テスト N-B2
数学関連検定：実用数学技能検定準 2 級
・幅広い教養として、特定の教科に偏らず、高等学校で学ぶ各教科の基礎的内容を十分に理解している人
・地理歴史、公民、理科、保健体育、芸術、家庭、情報といった分野において、広く基礎的な知識を持っていることに加え、いくつかの分野については深い興味・関心を持ち、さらに得意な分野も持っている人

［教育学科（初等教育専攻）］
1.望む学生像について
・子どもの発達と教育に関心を持ち、教職への強い志や使命感を持つ人
・国際感覚を持ち、初等教育をはじめ多方面において専門性の高い学修を志す人
・変化の激しいこれからの社会を生き抜くための知識と態度、コミュニケーション能力を身につけ、自分の個性を生かして、主に幼稚園または小学校の教員として、あるいは初等教育の専門家として教育関連の分野や広く社会に貢献する意欲のある人
2.高等学校における学習について
・初等教育を学修する上で基盤となる幅広い教養を担保するものとして、高等学校における各教科に関する基礎的学力を有する人
・初等教育を学修する上で基盤となるいくつかの分野に関しては深い興味・関心を持ち、さらに特定の得意分野を有する人

［教育学科（社会科教育専攻）］
1.望む学生像について
・高い目的意識を持ち、当該専攻で学んでいく強い意志と、これを適切に表現・発信するための表現力（情報収集力を基盤とした言語力、文章力、発表力、コミュニケーション力）を持つ人
・中学校の社会科教員、または社会科に強い小学校の教員、あるいは中学校との連携を踏まえた高等学校の地理歴史科・公民科教員を目指し、主体的に努力していく覚悟と豊かな人間性を持つ人
・グローバル社会を見据え、公務員や一般企業での活躍を目指し、教育分野の学びを活用し、広く社会に貢献しようとする意欲がある人
・中学校の社会科教員または小中・中高一貫教育に対応できる教員としての資質・能力の向上に向けて、大学院進学や多様なキャリアを目指し、主体的に努力していく覚悟と探究心を持つ人
2.高等学校における学習について
・地理、歴史、文化、社会、倫理、政治、経済といった分野において、広く基礎的な知識と能力を有する人
・地理、歴史、文化、社会、倫理、政治、経済といった分野のうち、いくつかの分野につい

ては深い興味・関心を持ち、さらに得意な分野も持っている人

［教育学科（保健体育専攻）］
1.望む学生像について
・健康、スポーツに高い関心を持ち、教職への強い志や使命感を持つ人
・健康教育の専門家を目指し、そのために幅広く学び、成長する意欲のある人
・自らの健康、体力を高めることに強い意欲を持ち、その実践に積極的に取り組める人
2.高等学校における学習について
・得意なスポーツ分野を持っている人
・保健体育を専攻するに相応しい基礎体力（文部科学省「体力・運動能力調査」A 判定レベル相当）が備わっている人

［教育学科 通信教育課程］
1.望む学生像について
・学校教育・社会教育・生涯学習に関心を持ち、教職への強い志や使命感を持つ人
・国際感覚を持ち、初等教育をはじめ多方面において専門性の高い学修を志す人
・変化の激しいこれからの社会を生き抜くための知識と態度、コミュニケーション能力を身につけ、学校教育・社会教育の専門家として教育関連の分野や広く社会で貢献しようとする意欲のある人
2.入学前における学習について
通信教育課程では、学歴の多様性に対応し、また生涯学習に向けての出発点であることを踏まえ、特に教科、科目を定めるものではないが、教員や社会人の育成にあたり幅広い教養と基礎学力・諸経験を身に付けていることを求めている。このため、入学するまでに教育学に関する基礎的な学習を満遍なく行っておくことが望まれる。

［乳幼児発達学科］
1.望む学生像について
・人間の発達や育ちに興味・関心を持ち、教職・保育職への強い志や使命感を持つ人
・理論と実践の両面から教育・保育・児童福祉について理解を深めることができる人
・教員・保育士などを目指し、主体的、自発的に学ぶことができる人
2.高等学校における学習について
・乳幼児の教育・保育、児童期の福祉を学修する上で基盤となる幅広い教養を担保するものとして、高等学校における各教科に関する基礎的学力を有する人
・乳幼児の教育・保育、児童期の福祉を学修する上で基盤となるいくつかの分野に関しては、深い興味・関心を持ち、さらに特定の得意分野を有する人

| 学部等名　芸術学部 |
| --- |
| 教育研究上の目的<br>（公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/arts/policy/） |
| （概要）<br>芸術学部は、本学創立の理念である全人教育のもと、全人的な陶冶を基本理念として、総合大学における芸術学部の特色を活かした芸術教育を目指している。芸術創造、芸術応用、芸術企画・経営、芸術研究の各領域を学びの指針として、学部段階教育を踏まえた芸術教養を基に体系的な専門知識と技能、および実践力の修得を図る。また理論的・実践的側面を統合的に学習することを通して、多様な芸術表現の可能性と芸術活動の支援的側面を探求し、我が国の文化芸術の特色を活かした芸術による社会貢献を推進し得る人材の育成、および玉川大学の教員養成の実績を背景に、創造性豊かな実践的指導力を備えた、中・高教員（音楽・美術・工芸）の養成を目的とする。<br><br>パフォーミング・アーツ学科は、パフォーミング・アーツの体系的理解に基づき現代社会における上演芸術や身体表現の役割を学修し、コミュニケーション能力と総合的実践力の育成を通して社会に貢献できる人材を育成する。<br><br>メディア・デザイン学科は、メディアアートとデザインの分野における幅広い知識とデジタル技術の修得を活かし、知識基盤社会、高度情報通信ネットワーク社会における日本の文化産業の発展に貢献できる職業人を養成する。<br><br>芸術教育学科は、芸術と教育に関する基礎的な知識と技能を体系的に修得し、人間理解を基礎に「芸術による教育」を学校教育や社会教育等の現場において、指導的な立場から先導的に推進できる人材を養成する。 |
| 卒業の認定に関する方針<br>（公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/arts/policy/） |
| （概要）<br>芸術学部では、所定の課程で芸術に関する専門的知識を修得し、かつ論理的思考力・コミュニケーション能力を有すると認められた人に、学位を授与します。<br>1.芸術に関する基礎的な知識を幅広く修得するとともに、得意とする芸術分野の専門的な知識を体系的に理解し、体系の意味と自己の存在を歴史、社会、自然と関連付けて理解できる。<br>2.芸術に関する知識や技能を総合的に活用し、現代の諸問題の解決に主体的に取り組み、社会に貢献することができる。<br>3.異文化、多文化の存在を認めつつ、異なった価値観をもつ人々と協働する際に必要な知識と技能、および豊かな表現力を身につけている。<br>4.社会人としての使命感や責任感を身につけて、自ら積極的に行動できるとともに、社会の規範やルールに従って適切な行動ができる。<br><br>[パフォーミング・アーツ学科]<br>1.豊かな芸術的感性と公共性、倫理性を育成する。<br>2.諸団体や地域との連携を強化し、社会の求める上演芸術に積極的に関与できる力を育成する。<br>3.日本語および英語の「読む、書く、聞く、話す」の４技能の発展を重視する。<br><br>[メディア・デザイン学科]<br>1.メディアアートとデザインに関する幅広い知識を習得させる。（知識・理解）<br>2.デジタル時代における芸術の役割を理解し、自ら課題を発見し、それを解決できる力を習得する。（思考・判断）<br>3.我が国の文化芸術に興味と関心を持ち、多様な価値観と共生できる力を習得させる。（関心・意欲） |

4.社会人としての使命感や責任感を身につけて、自ら積極的に行動できるとともに、高い倫理観を持ち、芸術の振興に取り組む素地を体得している。（態度）
5.日本語および外国語の「読む・書く・聞く・話す」4技能の発展のほか、メディアリテラシーを基盤とした研究調査力、コミュニケーションスキル、プレゼンテーションスキルを育成する。（知識・技能）
6.メディアアートとデザイン分野における応用力や表現力、創造力を身につけさせる。（技能・表現）

[芸術教育学科]
1.音楽あるいは美術・工芸の分野と教育の原理や教育の方法・技術など教育に関する幅広い知識や技能を習得させる。（知識・理解）
2.学校教育や社会教育の現場等での課題を発見し、それを解決できる力を習得させる。（思考・判断）
3.我が国の芸術教育に興味と関心を持ち、多様な価値観と共生できる力を習得させる。（関心・意欲）
4.社会人としての使命感や責任感を身につけて、自ら積極的に行動できるとともに、高い倫理観を持ち、芸術教育のさらなる充実に取り組む素地を体得している。（態度）
5.学校教育や社会教育の現場等で必要な実践的指導力をはじめ、応用力、表現力、創造力を身につけさせる。（技能・表現）

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/arts/policy/）

（概要）
芸術学部では、芸術に関する専門的知識、論理的思考力およびコミュニケーション能力の育成を共通目標にしてカリキュラムを編成しています。
現代社会は、知識が社会や経済の発展を駆動する基本的な要素です。今日の技術や経済分野の創造性は、芸術や文化の分野の創造性によって育成され、両者は互いに作用しています。このような社会においては、社会を発展させる原動力として、人間の感性や創造力が多様な分野で求められるとともに、自由で民主的な社会を支え、その改善に積極的に芸術の力を活用し関与できる市民が求められています。
また、社会の変化に応じた継続的な知識の獲得や生涯を通じて学び続ける基礎的な能力の育成も重要です。芸術学部の教育課程は次の各項を基に実施します。

[パフォーミング・アーツ学科]
パフォーミング・アーツ学科では、演劇・舞踊・音楽の上演芸術の学びを通じて、人間関係力（コミュニケーション）、異種混合結合力（コーディネーション）、創造構想発信力（プロデュース）などの豊かな資質と能力を備えた、アートで社会をつなぐプロフェッショナルを養成する。この目的を達成するため、カリキュラムを次の4つの方針に従って編成している
1.ユニバーシティ・スタンダード科目と学科科目を100番台から400番台科目まで順次履修することで、教育と芸術に関する知識を幅広く修得するとともに、多文化・異文化に関する知識、文化、社会、自然に関する理解を深め、芸術分野の体系の意味と自己の存在を歴史、社会、自然と関連付けて理解する。
2.上演芸術全般（演劇・舞踊・音楽・舞台技術・企画構想）に関する基礎的な知識・技能を幅広く修得するため、『身体表現』、『音楽表現』、『舞台技術』『企画構想』を、基礎科目から上級科目まで配置する。
上演芸術を取り巻く要素を体系的かつ多面的に学び、自己の適正を判断するために、『身体表現Ⅰ』、『音楽表現Ⅰ』、『舞台技術・企画構想Ⅰ』および『パフォーミング・アーツ概論』は必修とする。
2年次はこれらの分野から2科目を選択する。
3・4年次ではこれらの分野から1科目を選択することで、自身の専門性を深めていく。
卒業年次には学修の成果を「創作」「公演」「演奏」「論文」から適した形式で発表するこ

とで、課題に継続的に取り組み、主体的かつ能動的に学ぶ態度を身につけることを目的とする。
3.芸術に関する知識を、歴史、社会、自然と関連付け、体系的に理解できるようにするために、『演劇史』『演劇理論』『西洋演劇』『音楽史』『音楽理論』等の科目を開設する。
4.社会の諸問題についての関心と理解を深め、諸問題の解決に取り組むための知識・態度を身につけるために『文化政策概論』や『芸術応用(アウトリーチ)』を開講する。
また、上演芸術の社会における役割と必要性を認識するために『インターンシップ』『フィールドワーク』を開設する。
5.修得した知識や技能を活用して実践することで、豊かな表現力と社会人としての倫理性を会得できるようにするために、1 年次から 4 年次まで継続的に『パフォーマンス』を開設する。諸団体や地域との連携を強化し、社会の求める上演芸術に関与できる基礎力を修得するため『パフォーマンスⅠ』『パフォーマンスⅡ』『パフォーマンスⅢ』は必修とする。
『パフォーマンス』では、自らの研究・考察を論理的かつ的確に表現し、上演を成功に導くための協働、創作を行う。観客や聴衆に成果を披露する公演や演奏会の企画・製作・出演をグループで行うことを通して、異なった価値観をもつ人々と協働する知識・技能・表現力を身につけ、社会の一員として課題を発見し、能動的かつ主体的に解決できる広い視野と高い専門性を育むことを目的とする。

[メディア・デザイン学科]
メディア・デザイン学科のカリキュラムは芸術学部の学位授与の方針に基づき、次の方針に従って編成している。
1.ユニバーシティ・スタンダード科目と学科科目を 100 番台から 400 番台科目まで順次履修することで、芸術に関する知識を幅広く修得するとともに、多文化・異文化に関する知識、文化、社会、自然に関する理解を深め、芸術分野の体系の意味と自己の存在を歴史、社会、自然と関連付けて理解する。
2.学べる分野は造形系（デザイン、映像表現、CG、空間演出、総合造形等）と音楽系（コンピュータ音楽、作曲、音響合成、音響処理等）の 2 系統とし、理論とコンピュータスキルをバランスよく学ぶ課程を編成する。卒業後の進路を見据え、あるいは興味・関心に応じて、どちらかに重点を置きつつ、分野を横断できる教育課程を編成する。
3.4 年間の学修を、1 年次の「導入期」、2 年次の「発展期」、3、4 年次の「専攻期」と段階的に位置づけ、芸術を通して社会に貢献する力を体系的に育成する。
4.導入期（1 年次）では、各メディア・デザインに関する基礎的な知識の修得、およびメディア・デザインの分野を体系的に捉え、論理的思考力やメディアリテラリーなどのアカデミックスキルを育成するために、ユニバーシティ・スタンダード科目の『マルチメディア表現』と合わせ、『メディア・デザイン概論』、『メディア・デザイン理論基礎Ⅰ・Ⅱ』の理論科目と『メディア・デザイン演習基礎Ⅰ・Ⅱ』のコンピュータスキルを修得する演習科目を必修とする。同時に自らが進む専攻分野における入門科目を選択し、各分野の基礎力を修得させる。
5.発展期（2 年次）はメディア・デザインのみならず、日本文化やものづくりの歴史を理解するための理論および演習を学修する。卒業後の進路を見据え、あるいは興味・関心に応じて履修できるよう、主に選択科目として開設する。これからの日本のデザイン、メディア・アーツのあり方を考察し、世界の諸問題の解決に主体的に取り組む態度を身につけるために、『国際日本学』、『文化立国論』を必修とする。
6.専攻期（3 年次、4 年次）では専攻分野を選択し学修させる。
同時に、選択科目として専攻に関連する分野、あるいは総合大学の利点を活かし、US 科目や他学部の授業など異なる分野の科目を履修することで、芸術以外の領域と芸術を融合させた新しい芸術表現に挑戦するなど、各自の自主性に基づいた総合的、複合領域的な学修を可能にさせる。
更に、メディア・デザインに関する学修・研究のまとめとして、『メディア・デザイン研究Ⅰ・Ⅱ』、『芸術理論研究Ⅰ・Ⅱ』、『卒業プロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ』を必修科目として

開設する。
7.外国語コミュニケーション能力、特に英語力を高めるために、1 年次では ELF 科目により週に 2 回の英語を必修とする。また、専門教育と関連づけた学科科目『Arts in English Ⅰ～Ⅳ』を選択科目とし、英語運用能力を育成する。
また、異文化、多文化の存在を認めつつ、異なった価値観をもつ人々と協働する際に必要な知識を身につけるため、2 年次に『文化立国論』、『国際日本学』を必修とする。さらに国際舞台を見据え、これらの授業で修得した外国語能力を国外の大学との共同授業で活かし、実践的なコミュニケーションスキルとグローバルなマナーや感性を育む
8.社会人としての使命感や責任感を身につけて、自ら積極的に行動できるとともに、社会の規範やルールに従って適切に行動することを目的に、ユニバーシティ・スタンダード科目に『インターンシップ』を開設する。
9.芸術の社会貢献を実践的に学ぶことを目的に、企業、官庁、自治体など学外機関との教育連携を中心とした科目『メディア・デザイン・プロジェクト A・B・C・D』を開設する。
10.ディスカッションや協働して学修に取り組むアクティブ・ラーニングなどにより双方向性を確保した教育を実施する。
11.学修過程や成果を指導に活用するためのインターネットによる学修ポートフォリオや、学修内容を確実に修得ために、e-ラーニングや PC など情報技術の活用、チューターやスチューデント・アシスタントの導入など、学修支援体制を柔軟に構築する。

[芸術教育学科]
芸術教育学科のカリキュラムは、芸術教育学科の学位授与の方針に基づき、次の方針に従って編成している。
1.ユニバーシティ・スタンダード科目（教職関連科目群含む）と学科科目を 100 番台 400 番台科目まで順次履修することで、教育と芸術に関する知識を幅広く修得するとともに、多文化・異文化に関する知識、文化、社会、自然に関する理解を深め、芸術分野の体系の意味と自己の存在を歴史、社会、自然と関連付けて理解する。 なお、ユニバーシティ・スタンダード科目のうち『美術史』『美術理論』（美術コース）、『音楽史』『音楽理論』（音楽コース）を必修とする。 また、学科科目には音楽、および、美術・工芸のコースに関する科目をそれぞれ開設する。
2.学科科目の 100 番台には、芸術教育に関する概論や音楽および美術・工芸のそれぞれのコースに関する基礎科目を開設する。なお、芸術教育の基礎・骨格となる科目として、『芸術教育概論』を必修とする。芸術を広義に捉え、教育と結びつけて多角的に学修することで、芸術教育の社会での役割や、自らがどのように関わっていくことができるのか考える。200 番台には、コースごとに専門性の高い科目を開設し、専門知識を身につけさせる。これらの科目は卒業後の進路を見据え、あるいは興味・関心に応じて履修できるよう選択科目として開設する。300 番台、400 番台には、200 番台での学修を基礎として、更に専門性の高い科目を開設する。専攻科目のうち、『芸術教育研究Ⅰ』、4 年次に『芸術教育研究Ⅱ』『芸術教育研究Ⅲ』は必修とする。教育と芸術に関する知識や技能を総合的に活用し、多様な芸術表現の可能性と芸術活動の支援的側面を探究することで、現代の諸問題の解決に主体的に取り組み、社会に貢献する態度も身につける。
3.異文化、多文化の存在を認め、協働する際に必要な知識と技能、豊かな表現力を身につけるために、理論科目だけでなく、ユニバーシティ・スタンダード科目の『国際研究』『フィールドワーク』『インターンシップ』『地域創生プロジェクト』等、社会とつながる科目を開設する。かつ、小学校の英語教育の開始に対応するため、ELF 科目に加え、『Arts Education』や『Arts Criticism』など、英語で芸術を学ぶ科目を開設し、芸術に関する用語知識および表現方法を身につける
4.社会人としての使命感や責任感を身につけ、自ら積極的に行動するとともに、社会の規範やルールに従って適切に行動する態度を身につけるために、ユニバーシティ・スタンダード科目に『インターンシップ』および『教育インターンシップ』を開設する。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/arts/policy/）

（概要）
芸術学部では、玉川大学の教育理念と学部、学科の人材養成の目標および教育課程の内容を理解している人が入学することを期待しています。

[パフォーミング・アーツ学科]
パフォーミング・アーツ学科では未来の社会を創る芸術力を育成し、芸術によって社会貢献出来る人材を養成することを目指している。そのために以下のような要件を備えた人材が入学することを期待している。
1.高等学校で履修する国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語および芸術などの内容を理解し、高等学校卒業相当の知識と技能を有している。
2.物事を多面的かつ論理的に考察しようとする態度や、「読み、書く、聞く、話す」の基礎的な4技能を身につけている。
3.人間、自然、文化、産業、国際などの諸問題に関心を持ち、積極的に社会に貢献しようとする意欲がある。
4.多文化、異文化の存在を認め、自分の考えを他者に伝えようとする意欲と態度があると共に、自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。
5.他者と積極的にかかわり、対話や自らの表現を通して相互理解に努めようとする態度と、入学後に必要となる芸術表現に関する基礎的な技能を有している。
6.高等学校教育の内容・水準に配慮し、関連する日本語に関する検定、外国語に関する検定（実用英語技能検定準2級以上、TOEIC®L&R400点以上等）、コンピュータ操作に関する資格、数量的なスキルに関する資格やスコアなどを有していることが望ましい。

[メディア・デザイン学科]
メディア・デザイン学科では未来の社会を創る芸術力を育成し、芸術によって社会貢献出来る人材を養成することを目指している。そのために以下のような要件を備えた人材が入学することを期待している。
1.高等学校で履修する国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語および芸術などの内容を理解し、高等学校卒業相当の知識と技能を有している。
2.物事を多面的かつ論理的に考察しようとする態度や、「読み、書く、聞く、話す」の基礎的な4技能を身につけている。
3.人間、自然、文化、産業、国際などの諸問題に関心を持ち、積極的に社会に貢献しようとする意欲がある。
4.多文化、異文化の存在を認め、自分の考えを他者に伝えようとする意欲と態度があると共に、自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。
5.他者と積極的にかかわり、対話や自らの表現を通して相互理解に努めようとする態度と、入学後に必要となる芸術表現に関する基礎的な技能を有している。
6.高等学校教育の内容・水準に配慮し、関連する日本語に関する検定、外国語に関する検定（実用英語技能検定準2級以上、TOEIC®L&R400点以上等）、コンピュータ操作に関する資格、数量的なスキルに関する資格やスコアなどを有していることが望ましい。

[芸術教育学科]
芸術教育学科では未来の社会を創る芸術教育力を育成し、社会に貢献出来る人材を養成することを目指している。そのために以下のような要件を備えた人材が入学することを期待している。
1.高等学校で履修する国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語および芸術などの内容を理解し、高等学校卒業相当の知識と技能を有している。
2.物事を多面的かつ論理的に考察しようとする態度や、「読み、書く、聞く、話す」の基礎的な4技能を身につけている。
3.人間、自然、文化、産業、国際などの諸問題に関心を持ち、積極的に社会に貢献しようとする意欲がある。
4.多文化、異文化の存在を認め、自分の考えを他者に伝えようとする意欲と態度があると

共に、自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。
5.他者と積極的にかかわり、対話や自らの表現を通して相互理解に努めようとする態度と、入学後に必要となる芸術表現に関する基礎的な技能を有している。
6.高等学校教育の内容・水準に配慮し、関連する日本語に関する検定、外国語に関する検定（実用英語技能検定準2級以上、TOEIC®L&R400点以上等）、コンピュータ操作に関する資格、数量的なスキルに関する資格やスコアなどを有していること、また音楽コース入学希望者は古典派のソナタ形式を演奏できるピアノ技術を有していることが望ましい。

| 学部等名　リベラルアーツ学部 |
| --- |
| 教育研究上の目的<br>（公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_lbarts/policy/） |
| （概要）<br>リベラルアーツ学部では、「幅広く深い教養および総合的な判断力を養い、豊かな人間性を涵養する」ための教育を推進し、将来のキャリア形成を意識しながら、「学際的教養教育」かつ「知の基盤」の充実を図ることを目指しています。さらに、価値観の多様化・複雑化した現代社会では、時代の変化に柔軟に対応しつつ、調和の取れたコミュニケーション能力のある人材が求められており、その実現に向けて、実験・実習・調査・フィールドワークなどの体験型学習を積極的に取り入れ、地域や企業との連携を図り、社会的経験を積みながら「コミュニティの知的リーダー」となる人材の育成に努めています。具体的には、次のような学生を育てていくことを心掛けています。<br>1.広い視野、判断力、考え抜く問題解決能力があり、積極的かつ協力して社会に関わっていけるコミュニティのリーダーになれる人。<br>2.基礎基本を土台に専門性を身につけ、様々なプロジェクトを実践・推進できる人。<br>3.英語力・日本語力・デジタルコミュニケーション力があり、わが国の文化を様々なかたちで世界に発信できる人。<br>4.生涯教育を可能にする「ラーニング・コミュニティ」を意識し、生涯にわたり学び続ける気持ちを持ち、社会にその知識を還元・推進できる人。 |
| 卒業の認定に関する方針<br>（公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_lbarts/policy/） |
| （概要）<br>リベラルアーツ学部では、以下のような能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。<br>1.全学共通のユニバーシティスタンダード科目を中心に幅広い履修を通して基礎的な学修力を高め、批判的な思考を通して問題を探求する能力を身につけ、各自の将来について明確な展望をもつ。<br>2.各専攻（メジャー）における体系的な学修を軸に、4年間の「講義」「演習」「実習」や「卒業プロジェクト」を通して、自ら課題を設定し、分析し、解決する力を身につける。<br>3.他専攻、他学部の科目履修を含めた領域横断的な学修により、複合的な視野を高め、多様な価値観を認識し、自らの価値観を形成し、自分の考えを相手に理解してもらえるコミュニケーション力を身につける。<br>4.現代に生きる地球市民のひとりとして、多様な人や文化と共生でき、課題解決のために、知識を現場に活用する力、行動する力を身につける。<br>これらの力を身につけ、所定の単位を修得した学生に卒業を認定する。<br><br>領域・メジャーの履修において身に付ける力<br>[ヒューマン・スタディーズ系]<br>人間探究を通して現代社会で生きる力を養う。人間に根本的な哲学や宗教の問題、人間の成長や発達・行動の仕組み、人間の行動の社会的要因について、批判的・論理的に思考できる力を養う。<br>＜哲学・宗教＞<br>物事を根源的・批判的に考察し、さまざまな問題を包括的に捉えることができる。<br>人類の歴史や思想を宗教的な観点から深く理解し、多文化共生の課題解決のために貢献できる。<br>＜心理学＞<br>心と行動の仕組みを実証的に研究する方法やその理論を身につけることで、社会、地域、組織、家族におけるさまざまな問題に対して貢献できる。<br>＜社会学＞<br>現代社会の問題を、社会理論と実証的データに基づいて理解・分析し、その知見の活用を通じて具体的な問題解決に貢献できる。 |

［ジャパン・スタディーズ系］
グローバル化した世界の中で「日本」を客観的に理解し、発信し、現代社会と関わる力を養う
＜日本語・日本文学＞
日本語についての正しい理解を基盤にした高度な日本語表現能力や日本語教授の実践力、さらに過去から現代に至るまでの文学作品を読み込んでいくことで養った批判的思考力や発信力により現代社会における諸問題の解決に貢献できる。
＜日本学＞
人間の生活や思想などを多様な観点から広く追究しつつ、生活の全分野にわたる伝承文化をとおして日本の基層文化を理解し、現在の日常・非日常における文化状況や社会状況を正しく分析し発信する力を身につける。

［グローバル・スタディーズ系］
国際関係を核に世界と関わる力を養う
＜国際関係＞
現代日本の現況を国際関係の観点から考察し、国際協力として具体的な問題解決に貢献できる。

[STEM スタディーズ系]
情報技術や科学と現代社会のつながりを学び、未来社会に必要な技術と関わる力を養う。
＜STEM＞
現代科学に関心をもち、科学と現代社会の関わりについて考察し、多様な分野を科学的・実証的に考察・判断する力を身につける。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_lbarts/policy/）

（概要）
リベラルアーツ学部では、4 年間を 3 期、導入期・発展期・専攻期と位置づけ、それぞれの目標である構想力・実践力・推進力の育成をカリキュラムにおいて実現させます。導入期では日本語・英語のコミュニケーション力・情報処理スキル、プレゼンテーションスキルなどの育成に力点を置き、発展期では専門的研究の入門・演習科目を多様に開講し、実験・実習など様々な学びのスタイルを通して自らの課題に取り組んでいきます。専攻期ではプロジェクトセミナーで研究方法を培い、問題の発見、課題の解決、思考力を専攻科目の履修を通して養い、その成果を地域に資すために発表、提供できる教育課程の編成としています。
1.語学力を高めるために、1 年次は ELF 科目により英語を毎日学ぶ。（週 4 回）
英語によるコンテンツ科目を履修するためには､TOEIC®L&R400 点以上の取得を基本とする。また、卒業までに TOEIC®L&R600 点の取得を目標とし、卒業時までに ELF301 を履修し、学修する。
2.1 年次は、英語・日本語による論理的思考力・情報リテラシーを含む分析力などの基礎力育成に力点を置き、各専攻の入門科目を幅広く学ぶ。
3.2 年次では自身が基幹として学修を希望する分野の入門・概論科目について履修プログラムに示された科目を中心に学ぶと同時に、他分野の学修も積極的に行い、幅広い分野の学びを通して、各自の専門分野の選択を確定する。
4.また、テーマ別の分野横断的な科目『ブリッジ講座 A／B』を開講する。この履修によって、リベラルアーツ型の分野横断的な視野を養う。
5.2 年次以後、主にサマーセッション時に行われるインターンシップ等への参加を推奨する。大学において学習した内容を社会で実際に活かすため、社会の様々な実践の場を体験し、「大学での学びを社会で実践し深める」機会とする。
教室における授業や演習では十分に把握できない生の社会を体験する機会となるばかりでなく、自己の職業観の形成や自己を客観的に判断する能力の育成のための機会とする。
6.3 年次からは、各自の選択した専攻を深めるための専門科目と共に、少人数で実施され

るリベラルアーツセミナーにおいて、それぞれの学問分野における学修・研究方法を深く学び、各自の課題を解決する学修を深める。
7.卒業年次においては、学習成果を社会に資するために、卒業論文・卒業プロジェクト（リベラルアーツプロジェクト）に取り組み、各自の専攻分野において身につけた様々な力を活用し、研究成果をまとめ、発表する。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_lbarts/policy/）

（概要）
リベラルアーツ学部では、異なる意見や文化を持つ人と協働できる幅広い教養を有した人材、特にグローバル化した世界と現代日本の姿を様々な視点を通して理解し、自ら問題を設定し、その問題解決に貢献できる高い思考力と論理力を持った学生の育成を目的としています。

入学にあたって
1.高等学校で履修した教科のうち、特に国語、外国語、数学、地理歴史・公民、情報の教科書レベルの基礎知識を持っていること。（知識・理解）
2.各種資格・検定試験に挑戦し、高等学校卒業程度の水準を示す等級を取得していることが望ましい。（汎用的技能）
例：実用英語技能検定準2級、TOEIC®L&R400点程度、日本語検定3級、日本漢字能力検定準2級、実用数学技能検定準2級
3.リベラルアーツ学部卒業後の将来計画をもち、各自が学修計画を立て、進んで学ぶ意欲を持っていること。（態度・志向性）
4.高等学校内外においての諸活動（部活動、ボランティア活動、海外活動、生徒会活動、各種大会、コンクールへの参加など）に積極的に関わっていることが望ましい。（態度・志向性）
5.生涯にわたり学び続ける姿勢を備え、社会にその知識を還元・推進する意欲をもっていることが望ましい。（態度・志向性）

| 学部等名　観光学部 |
| --- |
| 教育研究上の目的<br>（公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_tourism/policy/） |
| （概要）<br>観光学部ではグローバル時代における観光の振興に広く貢献できる人材の養成を目指す。具体的には、現代における観光の意義と役割とその課題を的確に把握し、適切な情報の収集と分析を通して、また、異文化に対する理解を基礎に、高度な英語力を駆使してグローバル時代の観光産業と地域活性化に貢献できる人材を養成する。<br>そのために、グローバル時代における観光産業のあり方について、その基礎基本となる知識を体系的に学習し、そこで修得した知見を基に、幅広い観点から観光という現象の意義や役割を理解し、さらに現状の課題を社会科学的な方法論に基づいて認識しその解決策を提示できる能力を育成する。<br>また、グローバル時代の観光産業にあっては、インバウンド観光・アウトバウンド観光ともに、国際共通語としての英語力は必須であるとの前提にたち、その高度な運用力の修得を図るとともに、それを用いた異文化理解の深化と異文化との交流力を培うことを目指した教育・研究を行うことを目的とする。教育課程は、「観光全般に関する知識」を体系的に修得させることと、「英語運用力」の向上を図ることを主軸として編成されている。この教育課程を通して、「人間関係構築力」「情報収集・分析・表現力」「異文化理解・対応力」「社会的責任と倫理観」「問題発見・解決力」など「グローバル時代における観光の振興に貢献できる人材」が備えるべき基礎的な資質・能力を身につけさせる。 |
| 卒業の認定に関する方針<br>（公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_tourism/policy/） |
| （概要）<br>観光学部では、人材養成等教育研究に係る目的に基づくカリキュラムを通して、以下の能力を学士力として修得し、卒業要件を充足した人に、学士（観光学）の学位を授与します。<br>①観光に関する幅広い知識を身につけ、観光という現象を多様な観点から分析することができる。【知識・理解】<br>②グローバル時代における観光の新たな問題を発見し、適切な情報収集とその分析を通じて、自らの解決策を考え、提示することができる。【思考・判断】<br>③グローバル時代において、高い倫理観を持ち、日本国内並びに海外において国際観光の振興に取組む素地を体得している。【態度】<br>④異文化に対する興味と関心を持ち、多様な価値観と共生することができる。【関心・意欲】<br>⑤ビジネスの現場で的確なコミュニケーションをとることが可能となる高度な英語運用力を修得している。【技能・表現】 |
| 教育課程の編成及び実施に関する方針<br>（公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_tourism/policy/） |
| （概要）<br>観光学部では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、以下の通りのカリキュラムを編成しています。<br>①1年間の海外留学を含めて4年間の在籍で卒業が可能となるように設計する。<br>②留学出発前の第1セメスターから第3セメスターまでは、国際共通語である英語力の伸長を図ることに力点を置くカリキュラムとする。同時に、情報の収集・分析・表現力の育成を重視した科目を配置する。また、観光に関する基礎的な科目を履修できるようにする。<br>③第4セメスターおよび第5セメスターでは、「観光学部留学プログラム」に参加し、高度な英語力への伸長を図るとともに、異文化を理解し、交流を実践し、多様な価値観を有する人々と共生できるようにする。<br>④留学終了後の第6セメスターから第8セメスターでは、主として観光に関する専門的な学習を集中的に行うべく、「観光ビジネス」「観光による地域振興」「観光を通した国際交流」の3つの履修モデルを想定し、多様な専門科目を体系的に配置する。幅広い観点から専門的な理解を深め、観光の意義や役割、現状と課題を認識し理解できる能力を養成す |

| |
|---|
| る。さらに、自身の関心をもった分野について、問題の発見、情報の収集と分析、解決策の立案を行う機会を提供する。 |
| 入学者の受入れに関する方針<br>（公表方法：https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_tourism/policy/） |
| （概要）<br>観光学部では、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行い、養成する人材像や教育課程との関連性を踏まえて、入学志願者が高等教育を受けるに相応しい資質や能力を有しているかを多面的に判定します。<br>特に、現代における観光の意義や役割とその課題を的確に把握し、適切な情報の収集と分析を通して、また、異文化に対する理解を基礎に、高度な英語運用力を駆使してグローバル時代の観光産業と地域活性化に貢献できる人材を養成することから、次のような基本的な考え方・方針で学生の受入れを行います。<br>①高等学校の課程における主要な科目（英語、国語、地理、歴史）の教科書レベルの基礎知識を修得し、特に英語の学習で成果を上げた人。【知識・理解】<br>②観光や異文化交流を、常に問題意識を持って考えられる人。【思考・判断】<br>③本学部生に義務化されている英語圏への海外留学に 1 年間参加することを承諾できる人。【態度】<br>④地域活動やボランティア活動、クラブ活動などで実績をあげ、リーダーシップを有し、チームワークをとって行動できる人。さらに、本学部・学科で学んだことを活かし、卒業後に観光振興や他の分野で貢献する意欲を有する人。【関心・意欲】<br>⑤入学時に実用英語技能検定準 2 級程度以上、または TOEIC®L&R400 点以上に相当するレベルの英語運用力を有する人。【技能・表現】 |

②教育研究上の基本組織に関すること

| |
|---|
| 公表方法：https://www.tamagawa.jp/introduction/outline/tree.html |

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）

| 学部等の組織の名称 | 学長・副学長 | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手その他 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ― | 1 人 | ― | | | | | 1 人 |
| 文学部 | ― | 14 人 | 8 人 | 0 人 | 2 人 | 0 人 | 24 人 |
| 農学部 | ― | 22 人 | 14 人 | 0 人 | 2 人 | 9 人 | 47 人 |
| 工学部 | ― | 26 人 | 7 人 | 0 人 | 2 人 | 4 人 | 39 人 |
| 経営学部 | ― | 9 人 | 5 人 | 0 人 | 1 人 | 0 人 | 15 人 |
| 教育学部 | ― | 41 人 | 12 人 | 0 人 | 1 人 | 0 人 | 54 人 |
| 芸術学部 | ― | 22 人 | 7 人 | 0 人 | 1 人 | 5 人 | 35 人 |
| ﾘﾍﾞﾗﾙｱｰﾂ学部 | ― | 15 人 | 4 人 | 0 人 | 4 人 | 0 人 | 23 人 |
| 観光学部 | ― | 9 人 | 3 人 | 0 人 | 0 人 | 0 人 | 12 人 |
| 大学院 | ― | 12 人 | 0 人 | 0 人 | 0 人 | 0 人 | 12 人 |
| 付置研究所 | ― | 17 人 | 12 人 | 2 人 | 13 人 | 1 人 | 45 人 |

b. 教員数（兼務者）

| 学長・副学長 | 学長・副学長以外の教員 | 計 |
|---|---|---|
| 0 人 | 604 人 | 604 人 |

| 各教員の有する学位及び業績（教員データベース等） | 公表方法：https://unitama.tamagawa.ac.jp/kg/japanese/index.html |
|---|---|

c. ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

大学ＦＤ委員会を設置し、各種研修会の開催および学生による授業評価アンケートの実施・分析等を行っている。

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

| 学部等名 | 入学定員(a) | 入学者数(b) | b/a | 収容定員(c) | 在学生数(d) | d/c | 編入学定員 | 編入学者数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 文学部 | 140 人 | 150 人 | 107.1% | 580 人 | 584 人 | 100.7% | ― | 0 人 |
| 農学部 | 305 人 | 321 人 | 105.2% | 1,200 人 | 1,224 人 | 102% | ― | 1 人 |
| 工学部 | 240 人 | 256 人 | 106.7% | 960 人 | 997 人 | 103.9% | ― | 0 人 |
| 経営学部 | 130 人 | 146 人 | 112.3% | 520 人 | 572 人 | 110% | ― | 0 人 |
| 教育学部 | 315 人 | 374 人 | 118.7% | 1,260 人 | 1,488 人 | 118.1% | ― | 1 人 |
| 芸術学部 | 270 人 | 294 人 | 108.9% | 1,080 人 | 1,092 人 | 101.1% | ― | 0 人 |
| ﾘﾍﾞﾗﾙｱｰﾂ学部 | 160 人 | 194 人 | 121.3% | 640 人 | 740 人 | 115.6% | ― | 1 人 |
| 観光学部 | 90 人 | 139 人 | 154.4% | 360 人 | 481 人 | 133.6% | ― | 0 人 |
| 合計 | 1,650 人 | 1,874 人 | 113.6% | 6,600 人 | 7,178 人 | 108.8% | 人 | 3 人 |

（備考）　編入学定員については、若干名。

b. 卒業者数、進学者数、就職者数

| 学部等名 | 卒業者数 | 進学者数 | 就職者数<br>（自営業を含む。） | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 文学部 | 169 人<br>(100%) | 10 人<br>(5.9%) | 141 人<br>(83.4%) | 18 人<br>(10.7%) |
| 農学部 | 291 人<br>(100%) | 25 人<br>(8.6%) | 247 人<br>(84.9%) | 19 人<br>(6.5%) |
| 工学部 | 267 人<br>(100%) | 15 人<br>(5.6%) | 228 人<br>(85.4%) | 24 人<br>(9.0%) |
| 経営学部 | 132 人<br>(100%) | 0 人<br>(0.0%) | 119 人<br>(90.2%) | 13 人<br>(9.8%) |
| 教育学部 | 375 人<br>(100%) | 12 人<br>(3.2%) | 339 人<br>(90.4%) | 24 人<br>(6.4%) |
| 芸術学部 | 256 人<br>(100%) | 9 人<br>(3.5%) | 192 人<br>(75.0%) | 55 人<br>(21.5%) |
| ﾘﾍﾞﾗﾙｱｰﾂ学部 | 166 人<br>(100%) | 4 人<br>(2.4%) | 148 人<br>(89.2%) | 14 人<br>(8.4%) |
| 観光学部 | 100 人<br>(100%) | 0 人<br>(0.0%) | 90 人<br>(90.0%) | 10 人<br>(10.0%) |
| 合計 | 1,756 人<br>(100%) | 75 人<br>(4.3%) | 1,504 人<br>(85.6%) | 177 人<br>(10.1%) |

（主な進学先・就職先）（任意記載事項）
教育･学習支援業、卸売･小売業、情報通信業、サービス業、製造業、不動産業、金融業、大学院進学 他

（備考）
就職先の詳細はＵＲＬより確認　：　https://www.tamagawa.jp/university/career/data/

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

| 学部等名 | 入学者数 | 修業年限期間内<br>卒業者数 | 留年者数 | 中途退学者数 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| 文学部 | 178 人<br>(100%) | 163 人<br>(91.6%) | 1 人<br>(0.6%) | 14 人<br>(7.9%) | 0 人<br>(0%) |
| 農学部 | 326 人<br>(100%) | 285 人<br>(87.4%) | 8 人<br>(2.5%) | 33 人<br>(10.1%) | 0 人<br>(0%) |
| 工学部 | 311 人<br>(100%) | 246 人<br>(79.1%) | 18 人<br>(5.8%) | 47 人<br>(15.1%) | 0 人<br>(0%) |
| 経営学部 | 163 人<br>(100%) | 119 人<br>(73.0%) | 5 人<br>(3.1%) | 39 人<br>(23.9%) | 0 人<br>(0%) |
| 教育学部 | 384 人<br>(100%) | 360 人<br>(93.8%) | 8 人<br>(2.1%) | 16 人<br>(4.2%) | 0 人<br>(0%) |
| 芸術学部 | 300 人<br>(100%) | 247 人<br>(82.3%) | 10 人<br>(3.3%) | 43 人<br>(14.33%) | 0 人<br>(0%) |
| ﾘﾍﾞﾗﾙｱｰﾂ学部 | 177 人<br>(100%) | 159 人<br>(89.8%) | 4 人<br>(2.3%) | 14 人<br>(7.9%) | 0 人<br>(0%) |
| 観光学部 | 113 人<br>(100%) | 88 人<br>(77.9%) | 12 人<br>(10.6%) | 13 人<br>(11.5%) | 0 人<br>(0%) |
| 合計 | 1,952 人<br>(100%) | 1,667 人<br>(85.4%) | 66 人<br>(3.4%) | 219 人<br>(11.2%) | 0 人<br>(0%) |

（備考）
工学部→芸術学部に転学部１名、経営学部→教育学部に転学部１名、
ﾘﾍﾞﾗﾙｱｰﾂ学部→教育学部に転学部１名、観光学部→ﾘﾍﾞﾗﾙｱｰﾂ学部に転学部１名、
文学部→ﾘﾍﾞﾗﾙｱｰﾂ学部に転学部１名

## ⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）
教養豊かな幅広い知識をもち、基礎学力の堅固な基盤と高度な専門能力をもった有為な人材を育成するために、ユニバーシティ・スタンダード科目・学科科目・大学院科目で構成するカリキュラムを用意している。授業の理解度をたかめるために、各授業の前後に同程度の時間、予習・復習を行うことを推奨し履修する授業が連続しないように空き時間を設けさせ、履修計画させている。履修計画をたてるうえで、学科の卒業要件、必修科目の開講期、教育職員免許上の取得、資格の取得に必要な科目のチェック等を確認させ、留意事項等を学生へは履修ガイドに掲載して周知している。

## ⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）
履修登録の上限単位を各セメスターで 16 単位としている。大学での学修は授業とその予習・復習を行うことを必要とする内容で構成しており、1 週間の必要となる学修時間を考え履修可能な上限単位を設定した。GPA 制度を活用し、各セメスター終了時に、学修状況を確認している。卒業要件、警告制度、教職課程・資格受講条件、教職課程受講・受講継続条件、SAE 海外留学・研修プログラムの受講条件、奨学金の申請条件等に GPA を使用しており、学生へは履修ガイドに掲載して周知している。

| 学部名 | 学科名 | 卒業に必要となる単位数 | ＧＰＡ制度の採用（任意記載事項） | 履修単位の登録上限（任意記載事項） |
|---|---|---|---|---|
| 文学部 | 国語教育学科 | 124 単位 | (有)・無 | 16 単位 |
| | 英語教育学科 | 124 単位 | (有)・無 | 16 単位 |
| 農学部 | 生産農学科 | 124 単位 | (有)・無 | 16 単位 |
| | 環境農学科 | 124 単位 | (有)・無 | 16 単位 |
| | 先端食農学科 | 124 単位 | (有)・無 | 16 単位 |
| 工学部 | 情報通信工学科 | 124 単位 | (有)・無 | 16 単位 |
| | ソフトウェアサイエンス学科 | 124 単位 | (有)・無 | 16 単位 |
| | マネジメントサイエンス学科 | 124 単位 | (有)・無 | 16 単位 |
| | エンジニアリングデザイン学科 | 124 単位 | (有)・無 | 16 単位 |
| 経営学部 | 国際経営学科 | 124 単位 | (有)・無 | 16 単位 |
| 教育学部 | 教育学科 | 124 単位 | (有)・無 | 16 単位 |
| 教育学部 | 乳幼児発達学科 | 124 単位 | (有)・無 | 16 単位 |
| 芸術学部 | パフォーミング・アーツ学科 | 124 単位 | (有)・無 | 16 単位 |
| | メディア・デザイン学科 | 124 単位 | (有)・無 | 16 単位 |
| | 芸術教育学科 | 124 単位 | (有)・無 | 16 単位 |
| リベラルアーツ学部 | リベラルアーツ学科 | 124 単位 | (有)・無 | 16 単位 |
| 観光学部 | 観光学科 | 124 単位 | (有)・無 | 16 単位 |
| ＧＰＡの活用状況（任意記載事項） | | 公表方法：<br>https://www.tamagawa.ac.jp/student_guidebook/2019/pdf/01/032-033.pdf | | |
| 学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項） | | 公表方法： | | |

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

| |
|---|
| 公表方法：https://www.tamagawa.jp/university/introduction/information/ |

## ⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

| 学部名 | 学科名 | 授業料（年間） | 入学料 | その他 | 備考（任意記載事項） |
|---|---|---|---|---|---|
| 文 | 国語教育 | 1,017,000 円 | 250,000 円 | 405,200 円 | ＜その他の内訳＞<br>・施設設備整備費<br>・教育研究諸料<br><br>＊ 各学部年次進行に伴い、前年度授業料に対して 10,000 円の改定。<br>また、英語教育学科、観光学科は 2 次秋ｾﾒｽﾀｰ～3 年次春ｾﾒｽﾀｰの海外留学ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ実施のため掛かる留学授業料と当該ｾﾒｽﾀｰの本学授業との差額を別途徴収。環境農学科は 2 年に海外研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ実施のため掛かる研修授業料と当該ｾﾒｽﾀｰの本学授業との差額を別途徴収。 |
| | 英語教育 | 1,017,000 円 | 250,000 円 | 405,200 円 | |
| 農 | 生産農 | 1,041,000 円 | 250,000 円 | 525,200 円 | |
| | 環境農 | 1,041,000 円 | 250,000 円 | 525,200 円 | |
| | 先端食農 | 1,041,000 円 | 250,000 円 | 534,100 円 | |
| 工 | 情報通信工 | 1,097,000 円 | 250,000 円 | 545,200 円 | |
| | ｿﾌﾄｳｪｱｻｲｴﾝｽ | 1,097,000 円 | 250,000 円 | 545,200 円 | |
| | ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｻｲｴﾝｽ | 1,097,000 円 | 250,000 円 | 545,200 円 | |
| | ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞﾃﾞｻﾞｲﾝ | 1,097,000 円 | 250,000 円 | 545,200 円 | |
| 経営 | 国際経営 | 1,017,000 円 | 250,000 円 | 405,200 円 | |
| 教育 | 教育 | 1,017,000 円 | 250,000 円 | 415,200 円 | |
| | 乳幼児発達 | 1,017,000 円 | 250,000 円 | 415,200 円 | |
| 芸術 | ﾊﾟﾌｫｰﾐﾝｸﾞ・ｱｰﾂ | 1,187,000 円 | 250,000 円 | 525,200 円 | |
| | ﾒﾃﾞｨｱ･ﾃﾞｻﾞｲﾝ | 1,187,000 円 | 250,000 円 | 525,200 円 | |
| | 芸術教育 | 1,187,000 円 | 250,000 円 | 525,200 円 | |
| ﾘﾍﾞﾗﾙｱｰﾂ | ﾘﾍﾞﾗﾙｱｰﾂ | 1,017,000 円 | 250,000 円 | 405,200 円 | |
| 観光 | 観光 | 1,017,000 円 | 250,000 円 | 405,200 円 | |

## ⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

（概要）
[学生支援センター]
＜学生の生活支援に関する方針＞
本学では 12 の教育信条の一つに「個性尊重」を掲げ、大学教育棟 4 階には「Let every bird sing its own note.」と書かれている。このように、本学では一人一人の個性を十分に発揮できるよう努めている。その中で特に学生支援センターでは学生が心身ともに健康で安心・安全で安定した学生生活が送れるよう、学生委員会及び課外活動支援委員会を組織し、奨学金などの「経済的支援」、事件事故を未然に防ぎ、学生相談や学生指導を行う「生活支援」、クラブ・サークル活動等の「課外活動支援」の 3 つの柱を中心とした支援体制を構築する。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

（概要）
[キャリアセンター]
企業・公務員の志望者に対して、本学の「進路・就職支援ガイドライン」に沿った進路・就職支援を行っている。
＜進路・就職支援ガイドライン＞
1. 学生自身が卒業後に就業を通してやりがいを感じ、経済的に自立した社会人として更なる成長に繋がるよう、入学から卒業までの全期間でキャリアデザイン支援と就職支援を進める。
2. 各学部学科によるキャリア研修、キャリアセンターによる全学一括支援を両輪とし、学部の教育活動を支援する。
3. キャリアセンターによる通年可能な面談体制と個別対応の「Face to Face」に注力する。

4.年間を通じ取り組む求人情報、企業情報は学生向け学内システムで逐次公開する。
5.卒業生（学友会員）の協力による学生支援を推進する。
6.学修時間確保のため、ガイダンスの複数日程開催、休講日の活用。

[教師教育リサーチセンター]
玉川大学では、2006年4月教職に関する総合センターとして「教職センター」を設置し、さらなる“質の高い教員養成”と“教師教育学の研究活動推進”のために改組を行い、2012年4月に「教師教育リサーチセンター」を新設した。
教師教育リサーチセンターは、教職課程履修学生のサポートをする『教職課程支援室』、そして教師教育に関わる研究活動を推進する『教員研修室』の2つの部門から成り立っている。当センターは、これまでの教職課程支援事務のみならず、教師教育（教員養成・採用・研修）に関する研究・調査を行う研究機関的要素、さらには教育委員会、小・中・高等学校、幼稚園、保育所との連携を推進する機能をもつ全学教員養成の全体を包括する組織として位置付けられている。

c.学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）
[保健センター 健康院]
キャンパス内にある診療所（玉川大学・玉川学園の保健管理施設）。
診療は本学の学生・生徒・児童・園児および教職員が対象。
＜診療＞
保健センター 健康院では内科を主とした一般外来診療を学校法人玉川学園の学生・生徒・児童・園児および教職員に行っている。
＜心の相談室（カウンセリング）＞
学生生活を送るうえで直面する心の健康について予防と治療の両面から相談に応じている。
＜自然と健康＞
保健センター 健康院では毎年4回（春・夏・秋・冬）、環境教育の一環として、自然と健康の題材等をテーマとした情報を、児童、生徒、学生、教職員に提供している。
＜健康診断＞
定期健康診断は、年1回（春）実施している。健康診断の結果、異常を認めた学生に対しては、精密検査、面接指導も実施している。

## ⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.tamagawa.jp/university/introduction/information/